

近 畿

I. 放 送

1. 放送の概要

(1) 本部代替機能の充実に努める

「本部バックアップ機能の強化」に向けて、マニユアル送出・緊急報道対応を強化したNCニュース卓での初動送出訓練を年1回実施した。また、平日午後2時台の全中ニュースを、大阪局のニューススタジオから原則毎日制作・送出したほか、放送センター機能停止時における大阪局の2か国語放送の実施体制の構築に向けて、総合テレビの日曜日午後8時台の管中ニュースで2か国語放送を18回実施した。さらに、大阪局に整備された同時通訳ブースの設備・機材を、平時から放送などに活用して緊急時の対応に備えるために、地域経済番組『ルソンの壺』の素材を活用したニュース企画を収録し、『NEWSROOM TOKYO』（NHKワールド JAPAN）の中で放送した。

阪神・淡路大震災については、全国放送では、『関西発ラジオ深夜便（枠内企画）』（R1, 1.4, 1.11）、『NHKスペシャル「命をめぐる決断～災害多発時代 神戸からの問いかけ～』』（G, 1.17）を放送した。また、1月17日には、災害から24年目を迎えた神戸の街の様子を、発災時刻を中心に『NHKニュース おはよう日本』枠内にて中継で伝えたほか、『NHKニュース7』『ニュースウォッチ9』をはじめとする各番組でも当日の動きを伝えた。

近畿ブロック放送では、『ニュースほっと関西』枠内でカメラマングループの4Kプロジェクト「震災アーカイブプロジェクト」を17年度に引き続き展開したほか、同企画を1分ミニ番組として再構成し、年末から1月17日に向けて随時放送した。また、震災前後に『おはよう関西』『ニュースほっと関西』『ウイークエンド関西』『関西ホットライン』等の各定時番組で、震災関連企画を集中的に放送した。『かんさい熱視線「そのひとりを大切に～黒田裕子と災害ボランティア～』』（G, 1.18）では、災害ボランティアの礎を築いたとされる看護師の遺志を継ぎ、神戸、気仙沼などで活動を続ける人々の姿を追った。

甚大な被害が想定される「南海トラフ地震」については、全国向けの番組として、『防災ラジオ2018』（R1, 9.3）を放送。震度6弱を観測した大

阪北部地震で改めて浮き彫りとなった都市の災害と課題、対策を検証。きたる巨大地震にどう備えればいいのかを考える番組を放送した。このほか、南海トラフ地震発生の切迫性が高まっている近畿地方で命を守るために今何ができるのかについて、現場の取り組みを通して考える『かんさい熱視線「南海トラフ巨大地震 “津波最前線”の町は今』』（G, 3.8）を放送した。近畿ブロック向けには、平日11時台の番組『ぐるっと関西 おひるまえ』（G, 月～金）、平日夕方6時台の番組『ニュースほっと関西』（G, 月～金）で、防災や減災に関する企画を年間通して随時放送した。このほか、大規模災害時に被災した障害者がどのようにして助けを呼ぶかなど生き延びるために何が大切かを考えた『バリバラ「相次ぐ大規模災害 障害者は…」』（E, 10.7）を放送した。

(2) 視聴者の信頼に応える公平・公正、正確・迅速な災害報道

夕方6時台の各府県向けのニュース情報番組『ニュースほっと関西』（G, 月～金 年間245本）は、6時10分から6時30分までは関西一円のニュースやスポーツ情報を伝えるブロック域域位の時間帯、6時30分以後は域内の各放送局から地域のニュースを伝える府県域域放送の時間帯とした。各府県域域放送では、大阪局は『ニュースほっと関西』、各局は『ニュース630 京いちにち』（京都）、『ニュースKOBE発』（神戸）、『あすのWA!』（和歌山）、『ならナビ』（奈良）、『おうみ発630』（大津）をそれぞれ放送した。

6月18日に発生した大阪北部地震では、随時ライフライン情報を放送、L字放送も地震発生直後から翌週月曜まで29時間27分実施した。

また、6月28日以降降り続いた平成30年7月豪雨や9月4日に近畿各地に上陸し、大きな被害を与えた台風21号、9月30日の台風24号では、特設ニュースのほかL字放送も実施した。

(3) 地域の課題に向き合い、深く分かりやすく伝える番組

金曜午後7時30分からの報道番組『かんさい熱視線』（G, 年間31本）では、関西の視聴者が関心を持つさまざまな事象や注目すべきニュースを素早く深く掘り下げながら、関西の“今”を伝えた。

25年の大阪開催が決定した万博については、招致決定直後の特設ニュースのほか、「どうなる！？2025大阪万博」（11.30）で、開催に向けての課題や万博がどのような未来を描こうとしているのかについて伝えた。「復活！太陽の塔 現代へのメ

ッセージ」(4.13)では、70年の大阪万博のシンボル「太陽の塔」の1年半に及んだ修復作業の舞台裏に密着し、最新技術で生まれ変わる様子を描いた。統合型リゾート施設・IRについては、「関西にカジノ!?～IRの光と影～」(7.20)で、有力候補地の一つ大阪での動きや海外の実情を通して、経済効果や依存症対策について伝えた。また、宿泊施設の建設ラッシュが続き、空き家だった町家も海外からの投資で再生されている一方で、地域から住民が流出するなど影響も出始めている京都の光と影を伝えた「沸騰! KYOTO争奪戦～ホテル開発ラッシュの光と影～」(6.29)を放送した。

18年に関西で相次いだ地震や台風で住民全員が避難できた地区や消防の通報記録を徹底分析した命を守るために大切な事が何かについて探った「災害多発 カギ握る“判断”」(8.31)や台風の脅威から身を守るためにどう備えるかを考えた「猛烈な風」が街を襲った～検証 台風21号～」(10.12)を放送した。

在留資格がないまま国内に留まる不法滞在者が増え摘発が強化される中、現場の取材から考えた「シリーズ 外国人“急増時代”」(2.8, 2.15)を放送した。このほか、ママが駆け込み、弱音を吐ける大阪・阿倍野の施設を切り盛りする助産師に密着した「泣いて 笑って ママになる」(10.19)を放送した。

また、『かんさい元気印「美」の底力スペシャル』(G, 5.25), 『かんさい元気印「健康・長寿スペシャル」』(G, 1.11)では、関西の“美”や“健康・長寿”を支える事例を徹底取材して分かりやすく伝えた。

(4) 地域の活性化に貢献する番組

金曜午後8時台には、旅番組『ええトコ』(G, 年間27本)を移設して放送。関西各地や隣接各県に暮らす人々と旅人との触れ合いを通して、その土地に暮らす人々の思いや地域の魅力を丁寧に描いた。

月曜午前0時台には、大阪局発の若者向け番組として『まちけん参上!～あなたの街のおもしろ検定～』(G, 年間31本)を移設。地元の学生たちに関西の街のさまざまな魅力をリサーチしてもらい芸人がクイズを出題して地元の知られざる魅力を紹介した。

地域経済番組『ルソンの壺』(G, 年間11本)は、月1回・39分の放送を継続し、関西企業の強みや魅力、企業哲学や発想の極意を多角的に紹介した。

平日午前の『ぐるっと関西 おひるまえ』(G,

年間189本)は、14年度から取り組んだ番組冒頭でのデータ放送の双方向演出「ぐるかんラッキーベル」を継続して実施。

定時の全国放送番組では、音楽番組『うたコン』(G)をNHK大阪ホールなどから年間8本生放送したほか、『助けて!きわめびと』(G)を定時番組として継続し、大阪局の全国発信を強化した。

放送日時を水曜午後10時台に移設した『歴史秘話ヒストリア』(G)は、11年目を迎えた歴史番組として、歴史上の人間ドラマや感動秘話を幅広く取り上げながら、バラエティーあふれるラインアップの番組を目指した。19年1月からスタートした『大河ドラマ』「いだてん～東京オリムピック噺(ばなし)～」にちなんだ企画として、『歴史秘話ヒストリア「東京オリンピックに懸けた男たち」』(1.9)を、ドラマのスタートに合わせて放送した。

このほか、『バラエティー生活笑百科』『上方落語の会』(G), 『かんさい土曜ほっとタイム』『上方演芸会』(R1)などを制作した。

舞台となる鉄道会社沿線の“鉄道名所”を巡りながら難問に挑む鉄道クイズ番組『鉄オタ選手権～阪急電鉄の陣～』(G, 2.22)を放送し、鉄道を通じてそれぞれの地域を紹介した。

NHK大阪ホールを活用した番組では、事業イベント「BKワンダーランド」と連携した企画として、若者向け特集番組『ヤングナフェス2018』(G, 11.26)を公開収録し、人気ミュージシャンたちがスペシャルライブを通じて若者たちにエールを送った。同番組は、12月18日深夜の総合テレビで全国に向けても放送した。また、地域特集番組『漫才夏祭り2018』(G, 8.24), 『年忘れ漫才祭り』(G, 12.14)や『上方落語の会』(G)などを収録、『第49回NHK上方漫才コンテスト』(G, 3.1)を生放送した。『アインシュタインの相対性ラジオ』(FM, 2.18～3.1)を10回にわたり放送。一部公開放送を実施。また、地域特集番組として、公開オーディションで落語家アイドルを目指す『落語家アイドル育成プロジェクト～上方ルーキーズ～』(G, 3.25)を放送した。

『連続テレビ小説「まんぷく」』では、放送開始に向けた特集番組として、金曜夜8時台に『もうすぐ! 連続テレビ小説「まんぷく」』(G, 9.28)を42分尺で放送。同番組は、近畿ブロックでの放送に先立ち、9月24日に総合テレビで、9月29日にBSプレミアムで全国に向けても放送した。

関西で行われるさまざまなスポーツを全国に向けて積極的に発信した。『第100回全国高校野球選手権大会』(G, E, R1, FM, 8.5~21)では、総合テレビ・教育テレビ、ラジオ第1合わせて全試合を生中継した。NHKの高校野球中継では初めてテーマソングを制作(作詞・作曲・歌 福山雅治さん)したほか、全47都道府県から甲子園に集結したりポーターがアルプスからふるさと情報を伝え、100回大会を盛り上げた。ホームページは、出場校の紹介動画や取材記を掲載するとともに、インングスコアおよびインングの詳細情報、ボールカウントをリアルタイムで更新表示した。また、各出場校への応援メッセージを募集し、投稿された内容を放送で紹介するサービスを実施した。

また、『第91回選抜高校野球大会』(G, E, R1, FM, 3.23~4.3)、『男子第20回・女子第10回 全日本学生柔道体重別団体優勝大会』(E, 10.21)、『第73回甲子園ボウル 全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝「早稲田大」対「関西学院大」』(BS1, 12.16)などのアマチュアスポーツを伝えた。

ロードレースは、『女子第30回・男子第69回全国高校駅伝』(G, R1, 12.23)、『第37回全国都道府県対抗女子駅伝』(G, R1, 1.13)、『第24回全国都道府県対抗男子駅伝』(G, 1.20)、『第74回びわ湖毎日マラソン』(E, FM, 3.10)を放送。インターネットへのサービス展開として、16年度から開始したホームページでマルチチャンネルライブストリーミングを実施し、複数の画面から見たい中継映像とその実況テキストをリアルタイムで選択視聴できるサービスを提供した。また、18年度より最大30分間巻き戻しての視聴を可能とした。さらにホームページでは、競技速報に加え、出場選手のインタビュー動画やハイライト動画などレースに関連した動画クリップを公開した。このほか、競馬の『第78回桜花賞』(BS1, 4.8)、『第157回天皇賞』(G, 4.29)、『第79回菊花賞』(G, 10.21)などを中継した。

地域放送では、全国高校野球選手権100回を記念して、甲子園で活躍した関西出身の名選手や名監督、そしてブラスバンドなど大会を支える関西出身の人たちの知られざる物語を伝えた『関西人甲子園伝説』(G, 7.27)や、第91回選抜高校野球大会に関西から出場する6校の戦力や見どころを紹介する『センバツ直前! 関西勢さきどりチェック』(G, 3.21)を放送するなど、スポーツ中継への関心を高める取り組みを行った。そのほか、Bリーグ、プロ野球、サッカーJリーグなどプロス

ポーツの生中継のほか、『第47回関西学生サッカー選手権-決勝-「大阪学院大学」対「大阪体育大学」』(E, 7.8)、『第63回全国高校軟式野球選手権大会 決勝』(R1, 8.29)、『全国高校野球選手権大会』の関西2府4県大会の決勝戦(G, R1, FM)、『秋季近畿地区高校野球大会』(R1, FM, 10.27~11.4)、『関西大学ラグビー「京都産業大」対「天理大」』(E, 11.24)、『全日本大学アメリカンフットボール選手権 西日本代表決定戦「関西学院大学」対「立命館大学」』(E, 12.2)などを中継した。アメリカンフットボールでは、大阪局スポーツ中継としては初めて4Kサイマル制作を行い、BS4Kでも放送した。BS4K県域独制作では、センバツ高校野球準決勝・決勝を放送した。

(5) 関西ならではの豊かな魅力を全国・世界へ発信

18回目を迎えた『わが心の大阪メロディー』(G, 12.11)では、NHK大阪ホールをキーステーションに、大阪にまつわる数々の名曲を全国に向けてたっぷり放送した。

『ワンダーウォール~京都発地域ドラマ~』(BSP, 7.25)では、京都の歴史ある学生寮に巻き起こった老朽化による建て替え議論を巡る、純粋で不器用な寮生たちの青春を描いた。

2. 地域放送番組

(1) 定時番組

『おはよう関西』 G

月~金 7:45~ 8:00

第1回93.4.3/近畿ブロック/毎朝、関西の最新ニュースや気象情報をコンパクトに伝える番組。身近な話題を掘り下げるレポート、桜や紅葉など季節の中継、「元気な中小企業」「アジアの街から」など多彩なテーマのレポートを放送した。

『ウイークエンド関西』 G

土 7:30~ 8:00

第1回92.4.11/近畿ブロック/土曜の朝、お出かけに役立つ多彩な情報を伝える番組。各地の魅力を掘り下げる「西日本の旅」をはじめ、関西各地の季節や気候に合ったお出かけ情報を気象予報士がレポート。台風や大雨などの災害情報に加え、気になる気象情報を積極的に伝えた。

『ぐるっと関西 おひるまえ』 G

月~木 11:30~11:54

金 11:45~11:54

第1回03.4.3/近畿ブロック/関西2府4県の各局を結んで届ける情報番組。今が旬の人物から、文化、芸能、スポーツ、お出かけ情報まで、関西

にまつわるさまざまな話題を、関西各局のネットワークを活用しながら情報発信した。

『ニュースほっと関西』 G

月～金 18:10～18:59

第1回15.3.30/大阪圏域(一部、近畿ブロック)/大阪を含む関西2府4県の「ホット」な情報や「ほっと」する話題を伝えるニュース番組。“より深く、より分かりやすく”をモットーに、地域密着の情報を発信した。冒頭20分間の関西地域向け放送では、その日のニュースにこだわり、中継や記者・キャスターの解説などを交えて、分かりやすく伝えた。後半29分間の大阪府内向けには、暮らしに役立つ情報や災害から身を守るための情報、街の話題などを伝えた。各局タイトル:京都『ニュース630 京いちにち』、神戸『ニュースKOBEL発』、和歌山『あすのWA!』、奈良『ならナビ』、大津『おうみ発630』

『ニュース845』 G

月～金 20:45～21:00

第1回96.4.1/大阪圏域/関西の1日をコンパクトにまとめたニュース。京都局は『京都ニュース845』、神戸局は『兵庫ニュース845』、奈良局は『なら845』、大津局は『おうみ発845』、和歌山局は『わかやま845』を放送。

『上方落語の会』 G

金 11:05～11:45

第1回11.4.24/近畿ブロック/旬の若手の落語家から、ベテラン、重鎮、時には東京からも出演者を迎え、多彩な出演者がとっておきのネタを披露。バラエティー豊かな内容で落語の魅力を届けた。

『かんさい熱視線』 G

金 19:30～20:00

第1回08.4.4/近畿ブロック/事件や事故、社会問題から文化・芸能・スポーツ・医療・食など、関西にまつわるニュースや出来事、社会の動きに素早く反応。さまざまなジャンルの「視聴者が知りたいこと」に応えるため、現場を深く取材するとともに、スタジオに多彩なゲストを招き、関西社会の“今”を伝えた。

『ええトコ』 G

金 20:00～20:43

日 13:05～13:48

第1回12.4.13/近畿ブロック/ええトコを見つけて関西の魅力をたっぷり紹介する旅番組。毎回異なるテーマで、関西や近隣地方各地に暮らす人々と旅人とのふれあいを通して、その土地に暮らす人々の思いや地域の魅力を丁寧に描いた。

『まちけん参上!～あなたの街のおもしろ検定～』

G

月 0:10～0:49

㊿日 13:05～13:44

第1回17.4.9/近畿ブロック/大阪局が若者とタッグを組み、関西の街の魅力を紹介していくクイズ番組。学生リサーチならではの問題と、笑いでいっぱいのエピソードで、日曜の午後に「その町の人たちに会いたくなる」、地元密着のクイズ番組を放送した。

『ルソンの壺』 G

(最終)日 7:45～8:24

(最終)月 0:10～0:49

第1回14.4.27/近畿ブロック/地域向け経済情報番組。メイン企画として毎回身近なテーマを設定しながら、そのテーマを解決する「ツボ」をさまざまな関西企業の中に探していくことで、関西企業の「魅力」や「強み」、「信念・理念・哲学」を掘り下げた。

『関西ラジオワイド』 R1

月～金 16:05～18:00

第1回00.4.3/近畿ブロック/「楽しく聴ける情報満載の安心ラジオ」として、緊急時の報道と地域に密着した生活情報番組を目指した。また、ポエムや川柳の人気コーナーでは、幅広い年代のリスナーとの交流を深めた。

(2) 主な特集番組

『竹本住太夫さんをしのんで～「NHKスペシャル 人間国宝ふたり」ふたたび～』 G

5.13/8:00～8:57

『かんさい元気印「美」の底カスペシャル』 G

5.25/19:30～20:42

『関西人甲子園伝説』 G

7.27/19:30～20:42

『漫才夏祭り2018』 G

8.24/19:30～20:42

『ヤングナフェス2018』 G

11.26/0:05～1:04

『トップスターが語るタカラヅカ』 G

11.30/20:00～20:42

『年忘れ漫才祭り2018』 G

12.14/19:30～20:42

『かんさい元気印「健康・長寿スペシャル」』 G

1.11/19:30～20:42

『アインシュタインの相対性ラジオ』 FM

2.18～22, 2.25～3.1/18:00～18:50

『鉄オタ選手権～阪急電鉄の陣～』 G
2.22/20:00～20:42
『第49回NHK上方漫才コンテスト』 G
3. 1/19:30～20:42
『センバツ直前！関西勢さきどりチェック』 G
3.21/18:05～18:40
『落語家アイドル育成プロジェクト～上方ルーキーズ～』 G
3.25/ 0:10～ 0:49

(3) 主な府県域番組

〔京都局〕

『京都スペシャル』 G
京都府域 19:30～20:00
「京都タワーをつくった男 ～建築家・山田守の知られざる闘い～」
12. 7
「独創とは勇気である ～梅原猛の足跡～」
2. 8
『京都ミュージックライブセレクション』 FM
京都府域 3.22/18:00～18:50
『京の朗読会』 FM
京都府域 3.29/18:00～18:50

〔神戸局〕

『ラン×スマ～街の風になれ～ 姫路城マラソンスペシャル』 G
兵庫県域 4.27/19:33～19:58
『世界遺産めざす鳴門の渦潮 唯一無二の価値に迫る』 G
兵庫県域 5.11/19:30～19:55
『新兵庫史を歩く』『県政150年スペシャル 五国が彩る兵庫の歴史』 G
兵庫県域 7.13/20:03～20:33
『HYOGO+』 G
「きょうの料理 つくろう！にっぽんの味47 “兵庫県”」
兵庫県域 10.19/19:30～19:58
「Journeys in Japan 城崎温泉 古きよき憩いの湯」
兵庫県域 11. 2/19:30～20:00
「新兵庫史を歩く『兵庫県誕生の物語を追って～神戸市兵庫区・中央区～』」
兵庫県域 11.16/19:30～20:00
「RISING 歴史ある建物を再生させて文化を紡ぐ 他力野淳」
兵庫県域 12. 7/19:30～20:00
「J-Trip Plan 姫路城周辺&淡路島」
兵庫県域 1.25/19:30～20:00

「聖火のキセキ 兵庫 聖火ランナーが導いた銀メダル」

兵庫県域 3.15/19:30～19:55

〔和歌山局〕

『ニュース「和歌山市長選挙」関連』 G
和歌山県域 7.29/22:35～22:49
『紀の国スペシャル』 G
「謎の〇〇王国 和歌山」
和歌山県域 10.19/19:30～20:00
「CYCLE AROUND JAPAN 和歌山 神秘の大地をめぐる」
和歌山県域 10.26/19:30～19:57
「超体感 熊野古道 神秘の旅」
和歌山県域 1.25/19:30～20:42
「絶壁のクライマー！ ボウズハゼ」
和歌山県域 2. 1/19:30～19:58
『和歌山県知事選挙開票速報』 G
和歌山県域 11.25/22:27～22:50
『ラジオ防災講座①～⑫』 FM
和歌山県域 (第1) 金/18:00～18:50
※第2, 8, 10, 12回 (第2) 金/18:00～18:50
〔奈良局〕
『かんさい熱視線「奈良芸妓 ここにあり!」』 G
近畿ブロック 9.21/19:30～20:00
『奈良アーカイブス「興福寺中金堂 再建の歩み」』 G
奈良県域 10.27/17:00～17:13
『出張COOL JAPAN in 奈良「奈良は鹿と大仏だけやあらへんで! SP!」』 G
奈良県域 11.23/18:05～18:35
『聖火のキセキ「奈良 古都で貫く“柔”のレガシー」』 G
奈良県域 12. 7/19:30～19:55
『旬感☆ゴトーチ「うまし、たのし、あをによし、奈良若草山～奈良・奈良市～」』 G
全中 3. 4/12:20～12:43
奈良県域 3.15/19:30～19:53
『こころの時代～宗教・人生～「古(いにしえ)の大和へ」』 E
全中 4.22/ 5:00～ 6:00
『まほろばの神と仏と祈り～特別展「国宝 春日大社のすべて」フォーラム～』 E
近畿ブロック 5.12/14:00～14:48
『日曜美術館「至宝が語る 天平の息吹～第70回 正倉院展～」』 E
全中 11. 4/ 9:00～ 9:45

『8Kタイムラプス紀行～奈良～「奈良 不動七重の滝」』 BS 8K

全中 1. 6/18:30～18:35

『落慶～奈良 興福寺～』 BS 8K

全中 1.13/21:00～21:59

『奈良発FMスペシャル』 FM

奈良県域 18:00～18:50

「夏来にけらし!なら音めぐり」

6.21

「秋さらば!なら音めぐり」

10.23

「冬来たりなば!なら音めぐり」

1.22

〔大津局〕

『SHIGAバス ～インバウンド・ツアー～』 G

滋賀県域 7.20/19:30～20:29

近畿ブロック 9.24/13:05～14:04

BS1 8.22/ 0:50～ 1:49

『聖火のキセキ「滋賀 隻腕走者が掲げたパラSPORTSの炎」』 G

滋賀県域 11.16/19:30～19:55

『新日本風土記「比叡山」』 G

滋賀県域 12. 7/19:30～20:29

『旬感☆ゴトーチ!「びわ湖 水辺さんぽ～滋賀高島市～」』 G

滋賀県域 2. 6/12:20～12:43

『うまいッ!「辛みが効くう～!けど、甘い。伊吹大根～滋賀・米原市」』 G

滋賀県域 2.22/19:30～20:00

『めざせ東京!滋賀のパラアスリートたち』 G

滋賀県域 前編 3.15/19:30～20:00

後編 3.17/13:05～13:44

『しが!!防災応援ラジオ』 FM

滋賀県域 (第3)金/18:00～18:50

『防災ラジオ滋賀2019』 FM

滋賀県域 2.11/13:00～14:53

〔各局共通〕

『第85回NHK全国学校音楽コンクール・各府県コンクール』

大阪府域 FM/ 8.28～30

京都府域 FM/ 8.28～29

兵庫県域 FM/ 8.28～30

和歌山県域 FM/ 8.30

奈良県域 FM/ 8.28～29

滋賀県域 FM/ 8.28

天皇杯サッカー, センバツ高校野球・全国高校野球選手権, 全国高校駅伝, 全国女子駅伝, びわ湖毎日マラソン, 大相撲春場所, 競馬, 学生柔道, 甲子園ボウルなどをテレビ・ラジオで中継した。

(1) 高校野球

第100回全国高校野球選手権大会

(県域放送)

南大阪大会 決勝 G/ 7.28

北大阪大会 決勝 G・R1/ 7.30

京都大会 準決勝 G・FM/ 7.25

決勝 G・FM/ 7.26

西兵庫大会 決勝 G/ 7.27

東兵庫大会 決勝 G/ 7.28

和歌山大会 準決勝 G/ 7.25

決勝 G/ 7.26

奈良大会 準決勝 G/ 7.27

決勝 G/ 7.28

滋賀大会 準決勝 G/ 7.27

決勝 G/ 7.28

第63回全国高校軟式野球選手権大会

決勝 近畿・東海ブロック R1/ 8.29

平成30年度秋季近畿地区高校野球大会

(近畿ブロック)

準決勝・決勝 R1/11. 3～ 4

(県域放送)

京都大会 準決勝～決勝 FM/10. 7～ 8

兵庫大会 準決勝 FM/10. 7

決勝 FM/10.13

滋賀大会 準決勝 FM/10. 8

(2) プロ野球

(近畿ブロック)

「オリックス」対「DeNA」 G/ 6.16

「阪神」対「広島」 G/ 6.22

※広島発近畿・中国ブロック

「オリックス」対「西武」 G/ 9. 2

(3) Jリーグ・天皇杯サッカー

(近畿ブロック)

J1「C大阪」対「G大阪」 G/10. 6

(県域放送)

J2「京都」対「熊本」 G京都/ 4.21

天皇杯全日本サッカー選手権 各府県代表決定戦

第23回大阪府サッカー選手権大会

G大阪府域/ 5.13

第21回兵庫県サッカー選手権大会

G兵庫県域/ 5.13

第23回奈良県サッカー選手権大会

G奈良県域/ 5.13

3. スポーツ中継

全国放送では、プロ野球, 社会人野球, Jリーグ,

- 第23回滋賀県サッカー選手権大会
G滋賀県域 / 5.13
- 第23回和歌山県サッカー選手権大会
G和歌山県域 / 5.13

(4) その他のスポーツ

- 第47回関西学生サッカー選手権 決勝
「大阪学院大学」対「大阪体育大学」
E 近畿ブロック / 7. 8
- 関西大学ラグビー
「天理大」対「京都産業大」
E 近畿ブロック / 11.24
- 全日本大学アメリカンフットボール選手権 西日本代表校決定戦
「関西学院大学」対「立命館大学」
E 近畿ブロック / 12. 2
- プロバスケットボール Bリーグ
「滋賀」対「富山」
G 滋賀県域 / 11.11
- 「京都」対「滋賀」
G 京都・滋賀ブロック / 3. 3
- ゴールボール 女子日本代表国際強化試合
「日本」対「トルコ」
E 近畿ブロック / 5. 5
- (特集番組)
『関西人 甲子園伝説』 G
近畿ブロック / 7.27
- 『センバツ直前! 関西勢さきどりチェック』
G
近畿ブロック / 3.21

II. 技術

1. 番組制作

ドラマにおける新たな映像表現や、本放送が始まったBS4K・BS8Kのコンテンツ制作など、最新の技術を取り入れた質の高い番組制作に挑戦し、地域放送サービスの充実、迅速・的確な緊急報道など、視聴者本位の番組制作に取り組んだ。

(1) ドラマ番組

『連続テレビ小説』「まんぷく」では、何度も失敗しては立ち上がる夫婦の物語を、芝居の変化を逃さず一連で撮りきり、感情に寄り添った音作りでヒロイン「福子」の魅力を引き出した。

『土曜ドラマ』「不惑のスクラム」、『土曜ドラマスペシャル』「ベトナムのひかり～ボクが無償医療を始めた理由～」は、4K-HDR / 2K-SDR

で制作し、ドラマ4K制作の技術力蓄積を図り、課題を解決して制作フローの確立に向けて取り組んだ。

(2) 一般番組

NHK大阪ホールから『うたコン』を年間9本、12月『わが心の大阪メロディー』を生放送で届け、心に残る大阪の名曲でつづる音楽特番を華やかなステージに中継も交え全国に放送した。『ごごナマ』は午後1時と2時の2部構成。午後1時台はお悩み解決と料理コーナーにクレーンカメラも使い多彩な演出に対応。午後2時台は観光地などの中継も交え、週末にふさわしい楽しい話題を放送した。

(3) スポーツ中継

『高校野球大会』(8月・3月)、『全国高校駅伝』(12月)、『女子駅伝』(1月)、『びわ湖毎日マラソン』(3月)では、高画質映像と5.1chサラウンド音声による迫力と臨場感あふれる放送を行った。夏の『全国高校野球選手権大会』は、「第100回記念大会」にふさわしい名場面と名勝負を18台のカメラを駆使して放送した。

(4) 地域番組

地域の経済や問題を取り上げた『かんさい熱視線』『ルソンの壺』、地域を紹介するクイズ形式の『まちけん参上!～あなたの街のおもしろ検定～』『鉄オタ選手権』をロケ取材中心に制作した。また、笑いの大阪らしい『漫才夏祭り2018』、『上方漫才コンテスト』など上方芸能の笑いのセンスを感じながら挑戦的なライティングと安定したカメラワーク、聞き取りやすい音声で意欲的に制作した。3年目になる『ヤングナフェス』は若い世代に支持されたアーティストによる地域音楽番組として効率的に制作した。

(5) スーパーハイビジョン

スーパーハイビジョンの制作では、『宝塚歌劇』を22.2ch立体音響による臨場感あふれる独創的なコンテンツとして本放送に向けて4本制作した。『興福寺中金堂落慶法要』では、300年ぶりに再建された中金堂の落慶法要を3台のカメラとクレーンカメラ・スーパースコーピオで多角的に撮影し、超高精細・HDR広色域映像で歴史に残した。『西日本アメフト選手権』では、最新大型4K中継車を使用して4K2K一体化で初めて制作し、スポーツ中継の効率的な一体化制作を検証した。

(6) デジタルサービス

『全国高校駅伝』(12月)、『女子駅伝』(1月)、『びわ湖毎日マラソン』(3月)では、視聴者に

見たい映像を自由に選択して中継を楽しんでもらうため、駅伝は4チャンネル、マラソンでは3チャンネル同時に、インターネットでライブストリーミングサービスを行った。今回新たに中継映像を振り返って見られる「早戻しサービス」を実施した。ライブストリーミングの視聴件数はいずれも大幅に増加した。

『バリバラ』（8月）では、視聴者がPCやスマートフォンから投稿を行う視聴者参加型の双方向番組を制作した。

（7）緊急報道

最大震度6弱を観測した「大阪北部地震」（6.18）では、JR大阪駅や大阪管区气象台、被害が大きかった高槻市や吹田市から中継を実施した。加えてL字放送やライフライン放送で、交通情報や被害の状況、避難生活や生活再建に必要な情報などをきめ細かく伝えた。

18年は、近畿地方に5つの台風が上陸・接近したため、各地からの中継を交えながら切れ目なく放送した。特に近畿地方に大きな被害を及ぼした台風21号（9.4）では、関西の玄関口・関西空港が滑走路の冠水と連絡橋の破損などで10日間にわたり閉鎖され、復旧に至るまで中継などで状況を伝えながら手厚く放送した。

中国地方に甚大な被害を及ぼした7月の西日本豪雨では、大阪局から約2週間にわたって応援要員を派遣して災害報道にあたった。

「彦根市交番で警察官射殺」（4.11）、「森友学園疑惑 籠池氏釈放」（5.25）、「オウム真理教死刑囚 死刑執行」（7.6）、「富田林署から容疑者脱走」（8.12～9.29）なども中継で伝えた。一方で、25年万国博覧会大阪開催決定（11.23）の歓喜の声を大阪市内のパブリックビューイング会場から生中継するなど明るい話題も届けた。

2. 視聴者とのふれあい（CS活動）

「BKワンダーランド」（11.3～4）では、8K収録した『宝塚歌劇』を大迫力の350インチのスクリーンと臨場感あふれる22.2ch立体音響で上映した。また、新4K8K衛星放送の理解と普及促進のため受信相談を実施し、123人の相談に応じた。

10月には、大阪府内の小学5年生を対象にした「出前授業」を開催した。7校530人が授業に参加し、放送局の仕事について学習した。

近畿各地で行われた、『NHKのど自慢』予選会では、時差再生などによるCS活動を実施し、番組と連動した視聴者サービスに努めた。

3. 設備

（1）放送網の非常災害対策と安定運用に向けた取り組み

大規模災害に備え放送網の非常災害対策および機能強化を図った。また、各種設備の高信頼化や更新により放送設備の安定運用に努めた。

- ①TV基幹局送信空中線の予備空中線を整備した（神戸・摩耶山）。また、TV中継送信機を2台化した（大阪・中能勢、京都・京都大原）。
- ②TV基幹局送信設備の本線系設備を全面更新した（大阪・生駒）。このほかTV中継局固定回線（DE：京都・比叡山、和歌山・木ノ本、大津・宇佐山）、送信機（神戸・神戸兵庫、西宮山口、和歌山・海南、奈良・生駒奈良北）、自家発電装置（神戸・神戸灘）を更新した。
- ③FM基幹局の送信空中線（神戸・摩耶山）を更新し、中継局送信機（神戸・温泉、大津・山東）、固定回線（和歌山・岩屋山）、および送信空中線（京都・綾部八津合、神戸・西脇、温泉、赤穂、和歌山・すさみ）を更新した。
- ④R中継局の送信機を更新した（和歌山・すさみ）。
- ⑤より安定な送信ネットワーク構築のため、IP回線を追加した（神戸・淡路三原TV）。
- ⑥非常時の迅速な電波確保のため、非常用送信車に搭載するCS受信設備を整備した（大阪）。
- ⑦AM強靱化（津波対策）のため、FM補完ラジオ局（和歌山・すさみ）を新規置局した。
- ⑧TV基幹局の局舎の屋根・外壁防水層更新等の大規模補修を実施した（大津・宇佐山）ほか、6月の大阪北部地震で課題となったコンクリートブロック塀をフェンス化し安全対策を進めた（京都・舞鶴R、和歌山・新宮R）。

（2）NHK共同受信施設の安定運用に向けた取り組み

18年度は、NHK共同受信施設の老朽化に伴う大規模改修工事（光化）18施設、小規模改修工事（部分補修）14施設を実施した。また、台風等で被災した4施設の災害復旧工事を実施した。

このほか、雷害で引き下ろしケーブルが損傷し、仮復旧させていた2施設のうち、滋賀県の1施設は隣接施設から信号を受給して本復旧したほか、兵庫県の1施設は受信点を平地に移設して本復旧する大規模設備変更工事を実施した。

（3）番組制作・送出設備の整備

番組制作設備は、テレビスタジオおよびNHK大阪ホールにXDCAM録再機を整備した。また、

番組用ダイレクト編集機を大阪局3式、京都局2式、ほかの域内各局は1式更新した。

送出設備は次期運行設備整備のための建築工事を大阪・京都・神戸・和歌山局で実施した。また、神戸局のラジオ副調設備を更新した。

スーパーハイビジョン放送に対応するため、域内各局の共聴設備のBS4K・8K受信対応化工事を実施。大阪局アトリウムには280インチの8K大型ディスプレイを設置した。

電源・空調設備は、大阪局の共有UPS装置、制御用&電話用直流電源、空調監視センター装置（共有）、空調監視リモート装置（専有）、空調ポンプ3台（共有）を更新した。また、専有自家発電設備A号機の全分解点検を実施した。

（4）災害・緊急報道対応設備の整備

報道設備は、近畿域内局に4K取材カメラ、IP伝送用中継設備を整備した。また、近畿域内局のNHK震度計、緊急気象プリントシステム、報道IP網等を更新した。

伝送設備は、大阪局のFPU受信設備の4K対応、CS受信設備の8K対応工事を実施した。また、取材ヘリの搭載機器を4K化更新した。近畿域内FPU基地局については摩耶山、仁寿山、大雲取基地局を更新した。

（5）放送会館の建て替え

奈良放送会館の建て替えについては、18年4月に建築工事を着工、天津新会館については、18年7月に建築工事を着工し、19年2月に放送設備整備工事のキックオフミーティングを実施した。

Ⅲ. 視聴者

1. 広報

〔大阪局〕

（1）経営広報・番組広報

毎月1回（8月を除く）、関西放送記者会加盟18社を対象に局長定例会見を開催し、大阪局や域内各局の番組・イベントなど幅広い事業内容を広報した。

『連続テレビ小説』『まんぷく』（10.1～3.30）を中心に、『土曜ドラマ』『不惑のスクラム』（9.1～10.13）、『NHK大河ドラマ特別展『西郷どん』（7.28～9.17）、イベント「8Kで甦る！高橋大輔選手感動のNHK杯」（10.10）、『土曜ドラマスペシャル』『ベトナムのひかり～ボクが無償医療を始めた理由～』（1.12）、『第49回NHK上方漫才コンテスト』（3.1）、大阪局制作定時番組の新キャス

ター5名の紹介など会見・取材会を計22回、リリース計45回、そのほか出演者や制作スタッフ、アナウンサーの個別取材を適宜実施した。

「まんぷく」では、前半の舞台地・泉大津市で出演者トークショー（11.4）や沿線私鉄車内に広告出稿を行うなど、地域活性化につながる広報活動を展開。また、『連続テレビ小説』としては初めてのデジタル企画「まんがdeまんぷく」（10.1～全151回）や出演者オフショット企画を展開し、公式インスタグラムのフォロワー数は28万3,000人（ドラマ最終週）となった。

大阪局ツイッターアカウントでは、番組やイベント情報などに加えて、地域の安全・安心に寄与するため、災害情報の発信にも力を入れた。6月の大阪北部地震や9月の台風25号上陸の際、「NEWS WEB」と連携した生活情報や気象情報をきめ細かく発信し、年間フォロワー数も6,000人増加した。

（2）視聴者広報

①災害への対応

大阪局は、南海トラフ地震などの大規模災害に備えて、非常災害時緊急放送の受信公開について阪神阪急ビルマネジメントなど、オフィスビルと大型商業施設、ホテルの3事業者と覚書を交わした。この受信公開は、大地震や台風などの大規模災害が起きた場合に所有する大型画面を適宜切り替え、NHKの緊急放送を流すもので、大阪北部地震や台風21号の際にはJR西日本が大阪駅などで実施した。

②視聴者向けイベント

1階アトリウムに280インチ、8K大型モニターを設置（3.22）。BS8K放送の受信公開やイベントでの活用を始めた。

1階アトリウムで実施した「ぼくの絵わたしの絵」展（BKなつ祭り、8.2～12）には延べでおよそ3万9,000人が来場した。会場には高校野球の100回記念大会にちなみ、「伝説の高校球児桑田真澄、田中将大とVRで対決！」というVR体験コーナー（8.2～5、8.9～12）や甲子園球場の歓声を超立体音響で体感するコーナー（8.4～12）を設けた。また『連続テレビ小説』『まんぷく』の終盤の放送に合わせ、セット公開を実施し（3.21～31）、期間中に延べでおよそ4万8,000人が来場した。収録で使用した舞台などのセットをアトリウムに建て込み、小道具・衣装なども展示した。併せて30日には最終回の放送を8Kの大型モニターで公開、さらにドラマセットの中をVRで疑似体験するコーナーを設け（3.28～31）、1,800人余り

が楽しんだ。

大阪局の視聴者見学コース「BKプラザ」は、18年度に42万人余りが訪れた。BKプラザスタジオ（公開番組スタジオ）ではキャスター体験や「3Dハイビジョン映像体験」などの体験見学を定期的に開催するなど、子どもや家族が楽しめる催しを行った。また、4Kモニターで、阪神・淡路大震災の教訓を伝えるミニ番組（1.20～3.6）や清流古座川などの企画4本を上映し（3.7～31）、団体見学の小学生などが観覧した。

大阪局が独自の取り組みとして毎年行っている大阪市内の中学生を対象にした職場体験学習は、18年度に過去最高の48校173人が参加し、レポートや撮影・音声など番組制作の基礎を学習した。

18年度に大阪局へ寄せられた視聴者意向件数は、電話・手紙・来局・メールなど合わせて10万9,500件余りだった。

〔京都局〕

19年9月に京都市で行われるICOM（国際博物館会議）京都大会プレイベント（9.1～2、みやこめッセ）に参加し、「SHVスーパースローカメラ体験」や8KPRコーナーを設け、延べ9,000人が訪れた。京都国立博物館で開催した「特別展 京（みやこ）のかたな 匠のわざと雅のこころ」では、50日間で25万3,012人の来場者があった。SNSでの広報展開に注力し情報を発信し続けた結果、公式Twitterアカウントのフォロワー数は異例の4万7,000に上り、30代以下の来場者が52%を占め、若年層のリーチ拡大につながった。12月1日から始まったBS8K本放送開始後は、8Kプラザの220インチモニターを活用し、会館1階に約150席を準備し、連日受信公開を行った。『8K宝塚スペシャルシート』や『コブクロ オーケストラナイト』など注目度の高い番組は、放送に合わせた開館延長をTwitterで広報するなどし、毎回多くの来場者でにぎわった。放送会館の来場者は18年度も例年に引き続き年間10万人を超え、1月には、15年2月の会館移転以来の来場者数が40万人を超えた。

〔神戸局〕

「#8K_HYOGO」プロジェクトを立ち上げ、地域の魅力を8Kで記録していく取り組みを進めた。なかでも「匠～Takumi～」は、伝統工芸品を作り続ける職人、食やファッションなど文化を育むクリエイターなどの「匠」の技をシリーズで紹介するもので、BS8Kと総合テレビの夕方ニュース番組で放送した。また、外部では「078KOBE2018」（4.27～28、デザイン・クリエ

イティブセンター神戸）、「兵庫県政150周年記念式典」（7.12、神戸国際会館こくさいホール）、「国際フロンティア産業メッセ2018」（9.6～7、神戸国際展示場）のほか兵庫県立美術館（10.2～14）で上映を実施し、合計で約1万人が観賞した。また、一部日程を除いて神戸放送局で毎日上映を継続し、さらにはYouTubeのNHK公式チャンネルでの公開も実施した。

神戸放送局の1階トアステーションでは、18年度も「トアステJAZZライブ」「トアステフルートコンサート」を継続して開催した。さらに新ジャンルの企画としては、「一和の息吹 響く魂の鼓動 一和太鼓ライブ in トアステ」を開催した（11.18）。当日は会場定員を大きく上回り、会場外から観覧する人も多かった。また、若者に人気のシンガーソングライター・井上苑子さんとお笑いトリオ・四千頭身を迎えてトークイベント「イチハルKOBE ～おひとりさまですけどなにか？～」の公開録音を開催した（3.17）。

〔和歌山局〕

大規模な地震、災害において“一人の犠牲者も出さない”ことを目指す「守るプロジェクト」に引き続き重点を置き、防災・減災に関する取り組みをテレビ、音声波、イベントと多角的に展開した。台風や豪雨、地震などの発災時には県域での特設ニュースやFM上乘せ放送、逆L字放送を実施し迅速かつきめ細やかな情報提供を行った。また、発災時だけでなく毎日のニュースでの防災コーナーのさらなる充実、毎月定時で放送する『ラジオ防災講座』、防災イベントの「防災サバイバル」や「Let's Study BOSAI」の継続実施など、地域に根ざした放送局を目指して防災意識啓発に局を挙げて取り組んだ。

地域の魅力の発信にも全力で取り組んだ。10月に放送した『紀の国スペシャル「謎の〇〇王国和歌山」』では和歌山県の意外な全国No.1を背景から掘り下げて放送し、県内の視聴者から高い反響を得た。また、改元が行われる19年に向け“日本誕生の地”と呼ばれる聖地・熊野に広がる神秘の風景を紹介する『超体感 熊野古道 神秘の旅』を制作し、元日に放送。後にBS4Kで放送した4K高精細映像版と合わせ、全国に和歌山県の魅力を発信した。

〔奈良局〕

奈良局では4月に平城宮跡でNHKワールドJAPANがキャラバンを行うのに合わせ、『ならナビ』キャラバンを実施。奈良の観光資源の豊かさ、観光の在り方における課題について生中継で

伝えた。

11月には会館公開イベント「NHK奈良わくわくステーション」を開催し、約3,600人が来場した(11.23~24, NHK奈良放送会館)。駐車スペースに特設したステージでは、『天才てれびくんYOU』『ノーゾーのひらめき工房』などEテレの人気番組のステージショーや、奈良局オリジナルの『奈良わくわくのど自慢』を開催。また、館内では「NHK大河ドラマ特別展『西郷どん』」、ニュースキャスター体験をはじめ、BS4K・8K事務局と奈良局映像取材が協力し制作した新作の8Kタイムラプスを初公開。奈良県南部にある神秘的な滝「七重不動の滝」の圧倒的な映像美を体感してもらった。また、奈良ならではの「鹿の角きり」の様子を間近で見ているように体感できるVRコーナーも大阪局広報の協力のもと実現した。

このほか、BS8Kの普及に向けた受信公開を積極的に行っており、『いよいよスタート!BS4K・BS8K 開局スペシャル』(12.1)、『大相撲初場所』(1.26~27)のほか、『落慶~奈良 興福寺~』(1.13ほか)では放送日時の問い合わせを含め、視聴者から大きな反響があった。

【大津局】

年間キャンペーン「しが!!応援宣言」が4年目に入り、その内容が県民に浸透してきた。18年度も県民の命と暮らしを守り、滋賀のために役立つとともに、県民に親しまれ信頼される放送局としてさまざまな取り組みを行った。異常気象が続く、気象情報のニーズが高まっているため、昼前の近畿ブロックの天気脱編成し、県域天気の放送を開始して、視聴者サービスの向上を図った。また、18年度からスタートした『おうみ発630』のコーナー「しが!!防災応援団」とFM『しが!!防災応援ラジオ』を連携させた、一味違う防災番組は、動画、音声のウェブ配信も行い、防災意識の啓発に取り組んだ。

東京2020オリンピック・パラリンピックを2年後に控え、滋賀県内でも、さまざまなサポート体制が行われていることから、18年5月には『ゴールボール 女子日本代表強化試合 「日本」対「トルコ」』の中継とイベントを守山市で実施した。守山市は、ゴールボールを通じてトルコとホストタウン協定を結んでおり、トルコ代表が来日した際に行われた日本代表との強化試合をEテレ(管中)で中継し、連動イベントを開催することでその競技の魅力を広く紹介した。

18年度に大幅にリニューアルしたホームページは、「しが!!防災応援団」をはじめとする各コ

ナーの動画を掲載、新たにアナウンサー、キャスターの写真付きブログ「アナフォトブック」ページを始めたところ、SNS上での反響が大きく、アクセス数が増え、大津局Twitterのフォロワー数も上昇した。

2. イベント事業

18年度、近畿ブロックのイベントは、視聴者との結び付きの強化に努め、230件のイベントを実施し151万5,100人の視聴者が参加した。大阪局では、後期の『連続テレビ小説』「まんぷく」に連動した会館公開イベント「BKワンダーランド」

(11.3~4)やドラマの舞台となった池田市で『土曜スタジオパークin大阪「まんぷく」特集』(1.26)の公開生放送を実施した。また、小学生を対象とした防災教育イベント「NHK防災サバイバル」を大阪・和歌山・徳島で実施したほか、障害者による音楽イベント「バラフェス~ばらばらな音楽の祭典~」(2.3)をNHK大阪ホールで開催。8Kスーパーハイビジョンのプロモーションでは「2018 FIFA ワールドカップ ロシア アプリックビューイング」(6.19~20)や「4K8Kスーパーハイビジョンパークin大阪」(9.7~9)、「8Kで魅える!高橋大輔選手感動のNHK杯」(10.11)、「8Kスーパーハイビジョン宝塚シート」(11.3~4)などを展開した。

(1) 全国放送公開番組

『NHKのど自慢』『うたコン』『新・BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『わが心の大阪メロディー』『上方演芸会』など、テレビ・ラジオ番組64本を、NHK大阪ホールや近畿各地で実施した。

(2) 展覧会

「国宝 春日大社のすべて」(4.14~6.10, 奈良国立博物館)、「NHK大河ドラマ特別展『西郷どん』」(7.28~9.17, 大阪歴史博物館)、「特別展『高麗青磁—ヒスイのきらめき』」(9.1~11.25, 大阪市立東洋陶磁美術館)、「展覧会 太陽の塔」(9.15~11.4, あべのハルカス美術館)、「特別展 京(みやこ)のかたな 匠のわざと雅のこころ」(9.29~11.25, 京都国立博物館)、「没後50年 藤田嗣治展」(10.19~12.16, 京都国立近代美術館)、「第65回日本伝統工芸展」(10.17~22, 京都高島屋/11.7~12, 大阪高島屋)などを開催した。

(3) 教育・子どもイベント

「第65回NHK全国高校放送コンテスト近畿各府県大会」「第35回NHK杯全国中学校放送コンテスト近畿各府県大会」「第85回NHK全国学校音楽コンクール近畿各府県コンクール」および「同近

畿ブロックコンクール」を6～9月に実施した。「京のかたな展」の開催を記念したイベント「井上涼のびじゅチューン！ライブ大阪秋の陣2018」(9.22, 近鉄アート館)や「いないいないばあっ！あつまれ！ワンワンわんだーらんど」(5.12～13, NHK大阪ホール)、「おかあさんといっしょファミリーコンサート」(12.22～24, NHK大阪ホール)なども実施した。

3. 営業

3か年経営計画の初年度となる18年度、近畿ブロックでは、法人委託事業者の一層の拡大、職員・訪問員による事業所対策、訪問によらない営業活動の推進、民事手続きの着実な実施等、営業改革に取り組むとともに、受信料免除・割引など負担軽減策についても積極的に周知を行った。

法人委託の営業力強化については、事業者の新規開発、要員拡大と、併せて訪問員の営業力向上とマナーアップによるお客様満足度向上に重点をおいた育成に取り組んだ。

職員による事業所対策については、ローカル番組と連動した有料老人ホーム施設への対策や、17年度に続き、関西一部上場企業対策を実施した。

訪問によらない営業活動の推進については、日本郵便、大阪ガス、賃貸不動産事業者、ケーブル・ネットワーク事業者による取り扱いの拡大と、ポスティングによる契約勧奨対策に取り組んだ。

上記の活動の結果、18年度はブロック合計で9年連続となる全営業目標を達成した。

中国

I. 放送

1. 放送の概要

(1) 災害報道への取り組み

7月の西日本豪雨では、死亡者が200人を超えるなど広島県、岡山県を中心に中四国地方に甚大な被害をもたらした。広島・岡山・鳥取県に大雨特別警報が発令された7月6日に先立ち、雨が強くなり始めた5日の日中から中国ブロック向けに特設ニュースを放送するなどして、警戒を呼びかけた。6日以降も中国地方の各放送局は特設ニュースのほか、文字情報(L字画面)やインターネットも活用して被害状況を伝えるとともに避難を呼びかけ続けた。広島局と岡山局では7日夜からラジオで、翌8日からはテレビでもライフライン放送を開始した。およそ1か月にわたり、特設ニュースやライフライン放送、文字情報(L字画面)で最新の被害状況や生活情報、被災地支援に関する情報を伝えた。その情報はホームページでも提供し、SNSも活用して情報の拡散・誘導に取り組んだ。その後も、夕方の地域のニュース情報番組や金曜午後7時台の番組などで被害について多角的に検証したほか、被災地の現状や復興の課題について継続して伝えた。主な番組は、『ラウンドちゅうごく』『西日本豪雨の警鐘 ～命を守るためには～』(G, 7.13)、「豪雨3か月 生活再建に必要なこと」(10.5)、「過去の教訓はなぜ生かされなかったのか～西日本豪雨の現場から～」(2.22)、『@okayama』『豪雨から3か月～いま求められること～』(G, 10.12)、「真備で生きる ～介護現場 半年の記録～」(1.25)、『目撃！ につぼん』『“村はなくなった”～西日本豪雨 限界集落の半年～』(G, 2.3)、「僕が舞う理由～被災地の子ども神楽団～」(3.24)など。また、岡山局は西日本豪雨以降、ラジオでの情報発信を強化し、『ラジオdeもぎたて!』(R1)を随時放送した。

このほか山口局では、10月に発生した周防大島の大島大橋への貨物船衝突事故により、水道など周防大島町のライフラインが切断された際、テレビ・ラジオのニュースに加え、ライフライン放送のほかデータ放送やインターネットなども駆使し、復旧状況や生活情報などをきめ細かく伝えた。松江局と鳥取局は、16年の鳥取県中部の地震から

2年の節目に共同で、『さんいんスペシャル』「断層 ～山陰に潜む地震リスク～」(G, 10.26)を放送し、山陰地方の地震のリスクや避難の課題について多角的に検証した。

データ放送では、17年度より山口局のLアラートの情報に基づいた避難情報・避難所開設情報の提供が始まり、中国ブロックのすべての放送局でLアラートに基づく災害情報の提供が可能になっている。また、広島局、岡山局、鳥取局の3局は17年度までに引き続き土砂災害危険度情報を提供している。

(2) 核・平和関連の取り組み

17年に核兵器禁止条約が国連で採択された後も、史上初となる米朝首脳会談の開催、アメリカ大統領の中距離核全廃条約破棄の意向表明など、18年も核兵器と平和を巡り大きな出来事が相次いだ。核兵器廃絶を巡る動きや被爆者たちの活動や役割、被爆地・広島への思いについて、ニュースや番組を通じて年間を通して発信した。

これとともに、7・8月を中心にドラマ、ドキュメンタリー、アニメ、音楽など多彩な番組を編成し、被爆地・広島への思い、被爆体験の記録と次世代への継承などを発信し、さまざまな視聴者が改めて被爆や平和について考えるきっかけとした。

『広島平和記念式典』(G, 8.6)では、韓国国内に初めて設立された原爆資料館からも中継し、国境を越えて広がる核廃絶への祈りを伝えた。NHK広島開局90年にあたり制作した、『特集ドラマ「夕風(なぎ)の街 桜の国2018』(G, 8.6)はこの史代氏の同名コミックスの舞台を現代に移し、新たなエピソードを加えてドラマ化、原爆に翻弄された女性とその家族の、世代を超えた物語を描き出した。『NHKスペシャル』「広島 残された問い～被爆二世たちの戦後～」(G, 8.6)は、原爆放射線の遺伝的影響について今なお続く研究と、拭い去れない健康不安に揺れる二世たちの葛藤を描き出した。『NHK広島開局90年 原爆の日ラジオ特集』「スズメ～あの日からずっと一人じゃけえ～」(R1, 8.6)は、原爆で家族を失った老人と女性アーティストの交流、老人の体験を基に新たな“歌語り”が生まれる過程を見つめた。『いのちのうたフェス』(G, 7.30)は若手ミュージシャンたちが平和への思いを歌に込めて届け、若い視聴者が平和の大切さについて考えるきっかけとした。『10代の君へ』「アニメーションで伝えるヒバクシャからの手紙」(G, 8.7)では、広島局に寄せられた被爆者の手記の中から被爆当時10代だった人々の手記4編を国内外のクリエイターや広

島でアニメを学ぶ学生がアニメ化、次世代への被爆体験の継承に取り組んだ。また、英語版をNHKワールド JAPANでも放送(9.8)した。番組の中で放送した短編アニメは日本語版、英語版ともインターネットにも展開した。

(3) 地域放送

金曜午後7時台は、中国ブロック向けには中国地方に共通するさまざまな課題について視聴者の疑問・関心に寄り添って伝える『ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～』を放送したほか、プロ野球「広島カープ」中継を放送した。その一方で、各県向けの県域放送番組の充実を図り、地域のさまざまな動向をタイムリーに捉えた番組や、地域の魅力を紹介する番組を放送した。地域の結び付きが強く、互いの県への関心が高い山陰地方の松江局と鳥取局は共同して両県に向けた番組の放送に取り組んだ。山口局は、周防大島断水について『Yスペ!』「緊急報告 周防大島町断水」(G, 11.16)を放送し、島民の生活への影響について伝えた。また、各局とも地元を取り上げた衛星放送や国際放送で放送した番組を地域に向け改めて放送することにも積極的に取り組んだ。

平日午後6時台は、各県の基幹ニュース番組として、地域に密着した情報を提供して視聴者の関心に応えた。西日本豪雨の被害の大きかった広島局や岡山局では被災地の現状や復興の課題について継続して伝えた。松江局は、島根原発を巡る動きを伝え、金曜午後7時台の番組にも展開した。番組を刷新した鳥取局は、機動的な中継を積極的に活用した演出に取り組んだほか、16年に起きた県中部の地震の教訓を踏まえた防災や減災につながる企画をシリーズで伝えた。各局とも平成を振り返るシリーズを企画し、30年の地域の変化を振り返るとともにさまざまな課題を足元から見つめた。また、いざという時に備えてデータ放送を身近に感じてもらうため、広島局、岡山局、鳥取局、山口局では、双方向連動データ放送による気象クイズを定期的を実施した。

平日午前11時台は、生活情報番組『ひるまえ直送便』を引き続き中国ブロックで放送。各放送局とのネットワークを生かし、各地の旬な話題や暮らしに役立つ情報を提供した。

R1の午後5時台に月～木曜は広島県域向けに『ひろしま コイらじ』を、金曜は中国ブロック向けに『中国!ちゅーもく!ラジオ』を放送。地域の魅力や地元密着した情報を伝えた。

(4) その他

広島局は18年7月6日に開局90年を迎えること

を踏まえ、年初から定時番組や特集番組で開局90年に関連した企画を、年間を通じて展開した。特集番組はこの史代氏の人気コミックスを、舞台を現代に置き換え新たなエピソードを加えてドラマ化した『特集ドラマ「夕風（なぎ）の街 桜の国2018」』（G, 8.6）のほか、広島を象徴する色“赤”をキーワードに、広島交響楽団が広島にまつわる名曲の数々を演奏する『レッドシンフォニー～“赤”につながる音の旅～』（G, 4.30）などを放送した。夕方の地域ニュース情報番組『お好みワイドひろしま』（G）の中では、視聴者からのお便りを基に未来に残したい広島県内の風景を、寄せられたエピソードとともに4K撮影映像で伝える「心に残る広島」や日ごろ伝えられない家族や親しい人への感謝の思いを広島伝統の野球応援歌「宮島さん」の“替え歌”として伝える「ありがとう！感謝のうた」といった視聴者参加コーナーを通年で展開した。また、5月には北広島町から生中継で伝えたスペシャル版（5.24）を放送したほか、西日本豪雨から5か月が経つ12月には2日連続で被災地から生中継で復興の課題を伝えるキャラバン（12.13～14）を放送し、改めて地域とのつながりを確認する機会とした。『ひろしまコイらじ』（R1）では、12月に「コイらじ感謝祭」と題し、若いリスナーたちを招いた番組の公開収録を実施した。

プロ野球「広島カープ」は球団初のセントラルリーグ3連覇を果たした。優勝当日には優勝決定直後から『カープ セ・リーグ3連覇達成 2018優勝特番』（G, 9.26）を放送したほか、日本シリーズ開幕直前に開催されるドラフト会議の前夜には『プロ野球ドラフト会議 直前SP！生放送“みんなのカープ” 県民大会議』（G, 10.24）を放送、番組ホームページやSNSを通じて「カープ」の新人選択戦略について一般ファンの意見を募り番組内で紹介するなど、ドラフト会議や日本シリーズに向けて高まる視聴者の関心に応えた。

19年3月から広島の民放局・広島テレビ放送とのコラボレーション企画を開始。第1回目として『お好みワイドひろしま特別編「お好みワイドひろしま」×「テレビ派」コラボ プロ野球開幕間近！カープのチカラをどってん解明』（G, 3.25）を放送、リーグ開幕の前に地元の関心を集める「広島カープ」をテーマに両局の夕方のニュース情報番組を同時放送した。

岡山局は、結び付きの強い高松局と連携し、瀬戸内地方の視聴者の関心に応える放送に取り組み、『もっと四国』『コレマジ！？さぬきうどん伝

説 3玉目』（G, 6.29）をはじめとした高松局制作番組を金曜夜間などで岡山県域にも放送した。また、11月の「おかやまマラソン」ではイベントへの関心を高めるため、同マラソンに出場する夕方の地域ニュース情報番組『もぎたて！』（G）のアナウンサー・キャスターが地元の民放各局を訪問・エール交換するもようを放送した。松江局では、没後200年を迎える地元ゆかりの大名茶人・松平不昧に関する番組やイベントを展開した。山口局は、明治150年の節目に関連して定時番組や特集番組でさまざまな企画を展開した。県内で活躍する若者に密着した1分のミニドキュメンタリー『My “ISHIN”』を9本制作、それぞれの活動や思いを詳しく伝えるホームページも公開するなどインターネットも活用して展開した。また、10月に開催した『ザ・ディレクソン』と連動し、音楽やトークショーを通じて地元への批判などを地元愛へとつなげるイベント「Nフェス！デイス IS山口愛」（G, 12.24）を開催、そのもようを生中継した。

2. 地域放送番組

(1) 定時番組

『NHKニュース おはよう○○（県名）』 G

月～金 7:45～8:00

第1回93.4.5/県域/県内のニュースやきょうの動き、気象情報に加え、各地の話題や課題などを中継やリポートで伝えるニュース・情報番組。

『ひるまえ直送便』 G

月～金 11:30～12:00

第1回14.4.2/中国ブロック・一部県域/日々の暮らしに役立つ情報や、地域の魅力を再発見できる話題を伝える情報番組。料理や健康、レジャー情報のほか、視聴者参加の「川柳」コーナーやリポーターが各地を旅し出会った方にエピソードとともに大切にしている思い出の品を紹介してもらおう「あなたの大切なモノって何ですか？」など、多彩な内容で放送。

『お好みワイドひろしま』 G

月～金 18:10～18:59

第1回84.4.2/広島県域/広島県内のニュースを分かりやすく伝える情報番組。核兵器廃絶に向けた世界情勢や被爆者の活動から被爆体験の継承まで、さまざまな視点から核兵器や平和を巡る問題について年間を通じて伝えた。また、7月に西日本豪雨が防災して以降は、被災地の現状や復興の課題について継続的に伝えた。5か月がたった12月に2日間にわたる被災地キャラバンを実施し

たのをはじめ、節目節目では豪雨災害関連のリポートをシリーズで放送し、被災地の課題を多角的に伝えた。そのほか、広島県や中国地方の平成の30年間の出来事を振り返り、未来に向けた地域の課題を考える企画も随時放送した。また「広島カープ」の注目選手へのインタビュー「カープに聞いてコイ!」、双方向システムを利用した地域紹介コーナー「みっけ!!」や「お天気クイズ・まるてん!」の各コーナーは18年度も引き続き放送した。字幕放送。/各局タイトル:岡山『もぎたて!』, 松江『しまねっとNEWS 610』, 鳥取『いろ★ドリ』, 山口『情報維新!やまぐち』

『ひろしまニュース845』 G

月~金 20:45~21:00

第1回96.4.1/広島県域/県内の1日の出来事をコンパクトにまとめて伝えるニュース番組。/各局タイトル:岡山『岡山ニュース845』, 松江『しまねっと845』, 鳥取『とっとりニュース845』, 山口『情報維新!やまぐち845』

『ラウンドちゅうごく~為になるテレビ~』 新G

金 19:30~19:55

第1回18.4.27/中国ブロック/人口減少や、雇用や経済などの地域格差、核廃絶を願う被爆者たちの思いなど中国地方のさまざまな課題を“ぐるり”と見渡し、視聴者の“知りたい”に徹底的に応える番組。メインキャスターは広島市出身の為末大さん。

『“テッパン”話仕入れました!広島かたすみ食堂』 新G

金 19:30~19:55

第1回18.4.13/広島県域/年9回/広島のみぎり、ひっそりとした路地裏にある架空の鉄板焼き店“広島かたすみ食堂”を舞台に、地域の“知られざる魅力”に光を当てる情報バラエティー番組。街の片隅で輝く人やモノ、出来事など新定番となりうる話題(テッパン話)を探し出し、広島の“多様”で“リアル”な魅力を伝える。

『@okayama』 G

金 19:30~19:55

第1回17.8.1/岡山県域/年20回/岡山発の番組として、地域の課題や身近な話題、地域が求める情報をオールVTRで構成するドキュメンタリーからスタジオ・トークまで多彩な演出を駆使して提供していく。また、全国放送番組も地域向けに改めて放送し、“もう一度見たい”という県内視聴者の要望にも応える。

『さんいんスペシャル』 新G

金 19:30~19:55

第1回18.4.13/鳥根県域・鳥取県域/松江局:年16回, 鳥取局:年21回/鳥根, 鳥取両県の共通の課題や、山陰地方の豊かな自然や伝統文化、人物など地域の魅力を伝え、視聴者がこの地で暮らす豊かさを実感できる番組。鳥取県に特有の課題や話題についても、『さんいんスペシャル』のタイトルで鳥取県域に向けて放送する場合もある。

『√ると5min.』 G

土 12:40~12:45

第1回17.4.22/鳥取県域/マンボウやしりとハイキングウォーキング・松田が“ラブ鳥取”を合言葉に、ぶっつけ本番で鳥取県を旅する番組。

『Yスベ!』 新G

金 19:30~19:55

第1回18.4.13/山口県域/年22回/山口に沸き起こる新しい波を捉え、いち早く、そしてより深く見つけていく地域情報番組。

『NHK中国地方放送番組審議会』 G

随時

第1回97.11.16/中国ブロック/番組審議会の審議内容を伝える番組。

『おはよう中国』 R1

月~金 7:40~7:58

土 7:40~8:00

第1回89.4.3/中国ブロック/気象・交通など朝に欠かせない情報やニュース、旬の人や時の話題の電話インタビューで構成。

『ひろしま コイらじ』 R1

月~木 17:05~17:55 (大相撲期間を除く)

第1回16.4.4/広島県域/広島で頑張る若者の活動や、「広島カープ」やエンターテインメント情報など地元で根ざした情報を伝える番組。

『中国!ちゅーもく!ラジオ』 R1

金 17:05~17:55 (大相撲期間を除く)

第1回16.4.8/中国ブロック/中国地方の各放送局が制作した各地の魅力を伝える番組を、中国地方全域に向けて生放送する番組。

(主なラインナップ)

- 「ひろしま コイらじ」 (広島局)
- 「岡山ラジオ おからじ!」 (岡山局)
- 「まるっと☆しまね」 (松江局)
- 「やしろ荘でごによごによ」 (鳥取局)
- 「YAMAGUTIC」 (山口局)
- 「中国地方 戦争・平和インタビュー」 (各局)
- 「中国地方 人権インタビュー」 (各局)

(2) 特集番組(核・平和関連番組を除く)

[中国ブロック]

『瀬戸内宝石箱』 G

7:30~ 7:55

「うみの色 しまの色」

広島局 / 4. 7

「芸予諸島 四季の色」

広島局 / 4.21

『ありがとう三江線! あすへの出発』 G

松江局 / 4.13 / 19:57~20:42

『レッドシンフォニー~“赤”につながる音の旅~』

G

広島局 / 4.30 / 15:05~15:59

『ラウンドちゅうごく~為になるテレビ~「豪雨3か月 生活再建に必要なこと」』 G

広島・岡山局 / 10. 5 / 19:30~20:42

『アイデア対決 全国高等専門学校ロボットコンテスト2018 中国地区大会』 G

広島局 / 11.23 / 10:05~10:59

『ひるまえ直送便スペシャル 郷土のおせち饗宴~3シェフ オリジナルおせちに挑む~』 G

広島局 / 12.26 / 11:05~11:54

『ラウンドちゅうごく「まちづくりと国防のはざままで ~イージス・アショアの波紋~』 G

広島・山口局 / 3. 9 / 10:55~11:20

『私の胸のオリンピックたち』 G

広島局

「山縣亮太選手」 3.23 / 22:50~22:55

「有森裕子さん」 3.25 / 0:05~ 0:10

『第85回NHK全国学校音楽コンクール 中国ブロックコンクール』 E

広島局 / 9.22 / 14:00~16:43

『広響コンサート』 FM

広島局

「第379回定期演奏会から」 5. 6 / 14:00~16:00

「第388回定期演奏会から」 3.24 / 14:00~16:00

[県域]

『お好みワイドひろしまスペシャル~北広島町から生放送~』 G

広島県域 / 5.24 / 18:10~19:00

『ICHIGAN 王座奪還へ サンフレッチェ広島』 G

広島県域 / 8. 5 / 8:00~ 8:25

『ありがとう! 感謝のうた スペシャル』 G

広島県域 / 8.25 / 11:25~11:50

『カープ セ・リーグ3連覇達成 2018優勝特番』 G

広島県域 / 9.26 / 22:00~ 1:00

『プロ野球ドラフト会議 直前SP! 生放送 “みんなのカープ” 県民大会議』 G

広島県域 / 10.24 / 23:50~ 1:30

『お好みワイドひろしま 西日本豪雨キャラバン』 G

広島県域 / 12.13~14 / 18:10~18:59

『シリーズ「広島と平成」』 G

広島県域

「“カープ” と平成」

3.24 / 7:45~ 8:53

「“世界遺産” と平成・前編~原爆ドーム~」

3.31 / 7:45~ 8:24

『お好みワイドひろしま特別編 「お好みワイドひろしま」×「テレビ派」コラボ プロ野球開幕間近! カープの子カラをどってん解明』 G

広島県域 / 3.25 / 16:50~16:54,

17:29~17:54, 18:30~18:47

『心に残る広島・総集編』 G

広島県域 / 3.30 / 7:30~ 7:55

『さぬきドキッ!』 G

「アッキーが行く! 瀬戸大橋の30年」

岡山県域 / 4.13 / 19:57~20:42

「前野朋哉がゆく 地味だけど…世界に誇る東かがわ」

香川・岡山県域 / 5.12 / 10:55~11:20

「コレマジ! ? さぬきうどん伝説 3玉目…をちょっとだけ!」

香川・岡山県域 / 6. 2 / 10:55~11:20

『もっと四国「コレマジ! ? さぬきうどん伝説 3玉目」』 G

岡山県域 / 6.29 / 19:57~20:40

『どうなってるの? 島根原発3号機』 G

島根県域 / 7.20 / 19:30~19:55

『新・BS日本のうた 特別編「鳥取 歌の旅路! 涙の川中美幸! ゲゲゲのきよし!」』 G

鳥取県域 / 9. 7 / 19:33~20:45

『激唱! 爆笑! 大熱唱! ~密着 のど自慢 in 北栄町』 G

鳥取県域 / 10.26 / 19:55~20:25

『熱唱! のど自慢予選会』 G

山口県域 / 6.11 / 0:50~ 3:35

『やまぐち維新特集』 G

山口県域

「先人たちの底力 知恵泉(ちえいず)『高杉晋作、参上! ~ムチャが通れば奇跡が起こる~』」

11.18 / 13:05~13:49

「先人たちの底力 知恵泉 (ちえいず) 『事業は現場で起きている! ~ “鉄道の父” 井上勝プロジェクト成功の知恵~』
11.25/13:05~13:49

「YAMAGUTIC 『馬関龍馬伝~寛利夫 下関の旅~』
12. 2/13:05~13:31

「歴史秘話ヒストリア 『“逃げの小五郎” とよばれて~長州のヒーロー・木戸孝允の青春』
12. 9/13:05~13:49

『Yスベ! 特番 Nフェス! ディスIS山口愛~山口市中央公園から中継~』 G
山口県域/12.24/13:05~13:50

『がんばろう周防大島町~断水から1か月~』 R1
山口県域/11.22/12:30~12:55

〔各局共通〕

『第85回NHK全国学校音楽コンクール』

「広島県コンクール」 E
小学校の部 8.25/12:00~13:39
中学校・高等学校の部 8.25/ 9:20~11:33

「岡山県コンクール」 FM
小学校・中学校・高等学校の部
8.28/14:00~16:00

「島根県コンクール」 E
高等学校の部 8.25/ 9:20~10:25
中学校の部 8.25/10:25~11:35
小学校の部 8.25/12:00~12:47

「鳥取県コンクール」 FM
小学校・中学校・高等学校の部
8.31/18:00~18:50

「山口県コンクール」 E
小学校・高等学校の部 8.25/ 9:20~11:16
中学校の部 8.26/14:00~15:28

3. 核・平和関連番組

(1) 地域番組

〔中国ブロック〕

『ラウンドちゅうごく~為になるテレビ~』 G
広島局/19:30~19:55

「“核廃絶への挑戦” は今」 5.25

「原爆との“壁”をなくす」 10.26

『あの夏に逝ったあなたへ~早坂暁 ヒロシマに捧げた生涯~』 G
広島局/ 7.27/19:30~19:55

『いのちのうたフェス』 G
広島局/ 7.30/19:30~20:43

『川栄李奈がたどるヒロシマ「夕凧の街 桜の国2018」の現場から』 G
広島局/ 8. 1/20:15~20:40

『10代の君へ アニメーションで伝えるヒバクシャからの手紙』 G
広島局/ 8. 7/22:00~22:43

『ヒバクシャ 核大国での対話』 G
8.18/ 7:30~ 7:55

〔広島県域〕

『お好みワイドひろしま「原爆の日特集」』 G
8. 6/18:00~18:50

『シリーズ「広島と平成」“世界遺産”と平成・前編~原爆ドーム~』 G
3.31/ 7:45~ 8:24

(2) 全国放送

『平成30年 広島平和記念式典』
G 8. 6/ 8:00~ 8:38
G 中国ブロック 8. 6/ 8:00~ 8:56
R1 8. 6/ 8:00~ 9:00

『特集ドラマ「夕凧 (なぎ) の街 桜の国2018」』
G 8. 6/19:30~20:43
BS4K 12.19/19:00~20:13

『NHKスペシャル「広島 残された問い~被爆二世たちの戦後~」』 G
8. 6/22:00~22:45

『いのちのうたフェス』 G
8. 6/23:55~ 1:08

『NHK広島開局90年 原爆の日ラジオ特集「スズメ~あの日からずっと一人じゃけえ~」』 R1
8. 6/21:05~21:55

4. スポーツ中継

〔高校野球〕 *ブロックと特記した以外は県域放送
第100回全国高校野球選手権大会・地区大会

広島県	準決勝	G・E・R1/	7.27
	決勝	G・E・FM/	7.28
岡山県	準決勝	G・E・R1/	7.28
	決勝	G・R1/	7.30
島根県	準決勝	G・E・R1/	7.25
	決勝	G・R1/	7.26
鳥取県	準決勝	G・E・R1/	7.24
	決勝	G・R1/	7.25
山口県	準決勝	G・E・R1・FM/	7.25
	決勝	G・E・R1/	7.27

平成30年度秋季高等学校野球大会・地区大会

広島県	決勝	R1/10.13
岡山県	準決勝	R1/10.6
	決勝	R1・FM/10.7
鳥根県	準決勝	FM/10.2
	決勝	R1/10.3
鳥取県	準決勝	R1/10.1
	決勝	FM/10.2
山口県	準決勝	R1・FM/10.8
	決勝	R1/10.10

第131回秋季中国地区高等学校野球大会

(中国ブロック)

準決勝	R1/11.3
決勝	R1/11.4

〔プロ野球〕

(中国ブロック)

「広島」対「DeNA」	G/4.6
「広島」対「阪神」	R1/5.11
「広島」対「中日」	R1/5.25
「広島」対「西武」	R1/5.31
「広島」対「DeNA」	R1/9.13
「広島」対「巨人」	G/10.4

オープン戦

「広島」対「オリックス」	G/3.17
(中国・東海3県ブロック)	
「中日」対「広島」	G/4.20
(中国・北海道ブロック)	
「広島」対「日本ハム」	G/6.7
(中国・九州沖縄ブロック)	
「ソフトバンク」対「広島」	G/6.17
(中国・近畿ブロック)	
「阪神」対「広島」	G/6.22

(広島県域)

「広島」対「阪神」	R1・FM/9.22
「広島」対「DeNA」	R1・FM/9.24
「広島」対「DeNA」	R1/9.25
「広島」対「ヤクルト」	R1/9.26
クライマックスシリーズ ファイナルステージ	
「広島」対「巨人」	R1/10.17
「広島」対「巨人」	R1/10.18

〔Jリーグ〕

(広島県域)

「広島」対「柏」	G/10.6
「広島」対「名古屋」	G/11.24

(岡山県域)

「岡山」対「大宮」	G/11.17
「岡山」対「福岡」	G/3.17

(山口県域)

「山口」対「甲府」 G/11.11

〔その他のスポーツ〕

2018年度 全広島サッカー選手権・決勝

～第98回天皇杯広島県代表決定戦～

G/広島県域/4.22

第23回鳥根県サッカー選手権大会

～第98回天皇杯鳥根県代表決定戦～

G/鳥根県域/4.22

平成30年度鳥取県サッカー選手権・決勝大会

E/鳥取県域/4.22

平成30年度山口県サッカー選手権大会

～第98回天皇杯代表決定戦～

G/山口県域/4.22

第43回 日本ハンドボールリーグ 女子

「広島メイプルレッズ」対「オムロン」

G/広島県域/2.2

II. 技術

1. 緊急・災害報道, 選挙報道

広島県、岡山県、鳥取県など11府県に大雨特別警報が発令された7月の西日本豪雨災害では、中国ブロック・県域で特設ニュースを放送したほか、文字情報（L字画面）を積極的に活用して避難情報やライフライン情報を詳しく伝えた。今回、NHK災害情報のホームページへ誘導するQRコードについても放送画面内にスーパーを追加して送出した。現地からの伝送では、広島では道路が寸断されたためIP伝送を活用した。岡山では携帯電話網が使用できなかったためCSKを活用した。

4月8日深夜、鳥根県を震源とした最大震度5強の地震が発生した。総合テレビを中心に、発生直後から全国と中国ブロックの特設ニュースで伝え、地域の安全・安心を守る役割を果たした。

西日本豪雨災害、鳥根県西部地震のほかにも、廿日市女子高生殺害犯の逮捕、受刑者脱走・逃走事件、オウム死刑囚執行、周防大島行方不明2歳児発見、タンカーによる周防大島送水管切断など多くの緊急報道対応を実施した。

設備面では4K化を促進し、4K対応のIP伝送機材を充実させた。主な整備を以下に示す。

- ・LiveU (LU-600) (4K対応)
(LU-200) (支局用IP伝送装置充実)
- ・報道用4Kカメラ
- ・4Kメディアプレイヤー
- ・4K映像編集機

2. 番組制作

18年度は、広島局開局90年となる記念の年であり、多くの記念番組を制作した。

エンターテインメント番組では、広島局開催の『いのちのうたフェス』を多彩なカメラワークを駆使して制作した。

平和関連の番組では、原爆ドラマ『夕風（なぎ）の街 桜の国2018』を制作した。17年度広島制作技術で開発した「防振WLカメラコントロールシステム」を導入し、主人公が河川敷を全力で走るシーンを撮影した。ぬかるんだ悪路を走行する車からでも揺れの無い映像を撮影でき、監督からも高い評価を得ることができた。このドラマは、4Kスーパーハイビジョン放送にも展開した。

スポーツ番組では、「NHK杯フィギュアスケート」をグリーンアリーナから中継し、高いスポーツ中継スキルを発揮し、躍動感あふれる映像を世界へ発信した。また、8K中継車による8K収録とNHK広島放送センターでのパブリックビューイングも同時に開催した。

「カープ」中継は17年より4本多い、12本を制作した。

技術の新しい取り組みとして、Jリーグ中継と全国都道府県対抗広島男子駅伝において「リモートプロダクションシステム」を導入し、効率的な作業の確立と制作環境の向上を図るための検証実験を行い、新しい番組制作の可能性を探索した。

地域放送の充実を図るため、金曜夜間（19:30～19:57）の番組が新設された。管中番組『ラウンドちゅうごく』を25本制作し、ローカル番組では、各局地域の特色を生かした番組を年間10本程度制作した。

3. テレビ・ラジオ放送網設備

設備の信頼性向上を図るため老朽更新と併せて高野TV中継放送所および安芸佐伯FM中継放送所の放送機2台化整備を実施した（11～12月）。また、安定電波確保のため鳥取局ラジオSTL装置更新工事および広島・呉R、黒瀬FM、岡山・柵原FMなど、老朽化した放送機や空中線系設備の更新を実施した。山口県東部地区のTV自営無線回線設備において、由宇～岩国、周東、柳井間のTS-TTL設備の更新（2～3月）を行った。

NHK共聴の大規模（光化）改修については、域内44施設の工事を完了した。

4. 開発

新技術開発項目として、松江局が17年度に引き続き「KEYDREAM（クロマキーレスバーチャルシステム）」の開発に取り組んだ。本件は、地域局発としては初めてABU（アジア太平洋放送連合）デジタル放送シンポジウムで報告されるなど、局内外さらには放送業界内外問わず大きな注目を集めた。開発を通じて、新技術が放送サービスの質の向上につながっている。

5. 放送設備の充実・更新

2か年計画で実施した広島局のNC更新整備は、NC-Aスタジオを4月に仮場所で運用開始し、西日本豪雨対応のあと旧NC-A卓を撤去して、8月に本設位置へ移設して完了した。NC-Bスタジオの更新作業は10月に完了した。旧機器撤去など11月に完了して全ての工程を無事故で終えることができた。

岡山局のNC卓更新整備についても18年1月から仕様検討に着手、5～7月にかけて建築・電源工事、その後8月から新設備の設置工事やシステムテストを経て11月に完了した。

広島局開局90年事業の一つとして取り組んだ8Kスーパーハイビジョンシアターの整備に関しては、9月末に完成し、10月より運用を開始した。

6. 視聴者活動

新4K・8K衛星放送の開始前後に、放送サービスの内容や受信設備の整備に向けた技術情報を提供するセミナー（4か所）と技術講習会（41か所）を開催した。その結果、電器店・電気工事店の約3分の1の2,000店余が視聴者からの新4K・8K衛星放送の受信要望や工事等に対応できるようになった。広島局では5月の「2018ひろしまフラワーフェスティバル・シクラメンパーク」、10月の「4K・8Kスーパーハイビジョンパークin広島」のほか、山口県下関市、広島県廿日市市の「NHKのど自慢」予選会場や、松江市の「高専ロボコン2018 中国地区大会」、鳥取市「Nスポ！inとっとり」の番組収録やイベント会場など計15か所で8Kの公開視聴場所を設け、新4K・8K衛星放送の受信に関する問い合わせに答えた。

5月の「2018ひろしまフラワーフェスティバル・シクラメンパーク」において、スポーツの「新たな視聴体験」として制作した「8Kカープ」「8Kサンフレッチェ」などの8Kパブリックビ

ューイングを実施した。また、完成した8Kスーパーハイビジョンシアターにおいて、NHK杯フィギュアの8Kパブリックビューイングを実施（11月）し、250インチスクリーン+22.2ch立体音響で来場者に8Kの魅力アピールした。

Ⅲ. 視聴者

1. 広報

(1) 番組広報

広島局では、開局90年ドラマ『夕風（なぎ）の街 桜の国2018』（G, 8.6）の広報活動として、ポスター、リーフレット、番組パネルなどの広報ツール製作、ロケ期間中の記者会見、出演者による「カープ」戦始球式、東京での完成試写会を実施した。また、広島テレビとのコラボ放送（3.25）を行うにあたって、3月5日に共同記者会見を実施した。

岡山局では、瀬戸大橋架橋30年にあたり、高松局と共同で放送展開を図った。これに合わせて、JR瀬戸大橋線に、両局の夕方地域番組のキャスターを配した中吊り広告を掲出した。

松江局では、「この秋はNHKで不味三味」キャンペーンとして、大名茶人として名高い松江藩主・松平治郷（不味公）の没後200年関連番組・イベントを9～10月に集中編成・実施した。ポスター、チラシを作成・配布したほか、番組出演者、地元自治体、観光協会等の協力によるインターネットでのPR展開を行った。

鳥取局では、4月から始まった『いろ★ドリ』をPRするため、道の駅や公共施設にポスター、リーフレットを掲出した。また、『にっぽん縦断こころ旅』（BSP, 6.11～15）、『ブラタモリ』『#111 鳥取砂丘～』（G, 9.8）、『鶴瓶の家族に乾杯』『五輪柔道3連覇！野村忠宏と鳥取県米子市ぶっつけ本番旅』（G, 11.12）では、リーフレット、ポスターを事業所やJR山陰本線各駅などに配布した。特に『ブラタモリ』では、しゃんしゃん祭りに合わせて商店街へのフラッグ掲出や市内3か所に砂像を展示した。

山口局では、『ブラタモリ』の山口県が舞台となった放送回（5.26、萩／7.14、下関）に合わせて、ポスター、ポストカードを作成し、県内の自治体などに掲出を依頼した。また、Gガイドや地域フリーペーパーなどへの広告出稿を行った。

(2) 視聴者ふれあい活動

広島局では、「NHK・民放番組上映会2018」（8.11

～15）を民放4局と共同開催した。17年度に続いて広島平和記念資料館を会場とし、来場者は2,300人を超えた。また、会館で「カープ」戦中継のパブリックビューイングを随時行い、リーグ優勝目前の試合や日本シリーズでは多くの来場があった。

松江局では、松江市で行われた「松江水郷祭花火大会」（8.4）に合わせて会館屋上を開放し、304人が来場した。

鳥取局では、「あなたのとっとりのとき」をテーマに、“視聴者の日常生活”を視聴者自ら撮影してもらい、プロモーションビデオとホームページを制作。Twitterを使い新たな視聴者層との接触率向上を目指した。

山口局では、明治改元から150年に合わせ、山口から全国・世界に向けて挑戦する若者を紹介する「My “ISHIN”」キャンペーンを実施。若者に密着したドキュメント（1分スポット）を制作し、県内向けの放送で紹介したほか、ホームページに動画やインタビュー記事を公開した。

(3) 4K・8K（スーパーハイビジョン）

広島局では、開局90年を機に、8Kスーパーハイビジョンシアターを開設。シアターでは250インチスクリーンの8K超高精細映像と22.2マルチチャンネルの迫力ある音響を体験できる。10月6日のオープン以降、見学、イベントなどによる来場者は1万人を超えた。

各局では、12月1日のBS4K・BS8K本放送開始に合わせて会館や局外で受信公開を実施するなど、年間を通して8Kの魅力に触れてもらう活動に取り組んだ。

2. イベント事業

中国地方では99件のイベントを実施し、およそ62万人の参加者があった。

広島局では全国規模のイベント「2018NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」（11.9～11、広島市）、「第69回放送教育研究会全国大会」（11.16～17、広島市）を実施した。また、延べ10万人が来場した「NHKシクラメンパーク2018」（5.3～5、広島局）をはじめ、8Kスーパーハイビジョンシアターのオープンを記念した会館公開「4K・8Kスーパーハイビジョンパークin広島」（10.6～7、広島局）、NHK杯フィギュアスケートに関連した「みんなで応援！2018NHK杯フィギュア8Kクリスタルパーク」（11.3～11、広島局）を実施した。

中国地方各局でも、さまざまなイベントを実施した。

岡山局では、「第57回1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭in倉敷」(8.5, 倉敷市)を実施、西日本豪雨発生1か月後という中、復興に向けて歩みだす地域の元気を全国に伝えた。松江局では、大名茶人・松平治郷(不味公)没後200年にちなみ、「不味三昧! ~松江を築いたイケメン物語~」(9.15, 松江市)を行い、新たな視点から魅力を紹介した。鳥取局では、2020東京オリンピックの500日前となるのを契機とした東京2020公認プログラム「Nスポ! inとっとり」(3.9~10, 鳥取市)を実施した。山口局では、「山口ゆめ花博」の開催に合わせたイベント「みんなでつくろう!“ドームくん”花じゅうたん」(10.7~8, 山口市)や、若者を対象としたイベント「Nフェス! ディスIS山口愛」(12.24, 山口市)を実施し1,300人が来場した。

(1) 全国放送公開番組

『NHKのど自慢』『新・BS日本のうた』などの全国放送公開番組を、中国地方で22本実施した。

(2) 教育・子ども

「NHK全国学校音楽コンクール」「NHK杯中学校・高等学校放送コンテスト」を中国地方各局で、また「高専ロボコン中国地区大会」(10.21, 松江市)、「NHK子ども音楽クラブ」(10.30, 廿日市市)、「NHK放送体験クラブ」(2.5~15, 広島局)等の教育イベントのほか、「おかあさんといっしょ宅配便 ガラビコぶ〜小劇場」(9.8, 東広島市/2.23, 宇部市/3.16, 川本町)、「おかあさんといっしょファミリーコンサート」(12.1~2, 鳥取市)、「いないいないばあ! ワンワンわんだーらんど」(2.10, 呉市)などのファミリー向けイベント、『大河ドラマ』『西郷どん』に合わせた「NHK公開セミナー」(7.15, 萩市)を開催した。

(3) スポーツ・福祉・キャンペーン

「ラジオ体操・みんなの体操会」「各県サッカー選手権大会(天皇杯各県代表決定戦)」を中国地方各局で実施。「天皇盃第24回全国男子駅伝」(1.20, 広島・廿日市市)および関連イベント「RUNナビ! ひろしま男子駅伝」(1.11~20, 広島局)を実施。福祉では、「NHK歳末・海外たすけあい」(12.1~25)、「NHKハート展」(11.23~12.5, 広島局)、キャンペーンでは「食料フォーラム」(2.6, 広島市)を実施した。

(4) 展覧会

「生誕120年 児玉希望展」(4.27~6.17, 三次市 奥田元宋・小由女美術館)、「没後200年 大名茶人・松平不味」(9.21~11.4, 鳥根県立美術館)、「北斎 永田コレクションの全貌公開(序章)」

(2.8~3.25, 鳥根県立美術館)、「第65回日本伝統工芸展」(11.15~12.2, 岡山県立美術館/12.5~25, 鳥根県立美術館/2.21~3.10, 広島県立美術館)を実施した。

3. 営業

18年度の中国ブロックは、7年連続で全営業目標を達成し、3か年経営計画(18~20年度)の初年度での営業業績を確保した。

主な取り組みとして、契約・収納体制を強化するため、広域型法人委託の効果的な運用、公募型企画競争による法人委託の開発やエリア型法人委託の開発、既存法人委託の拡大など、年間を通じて訪問要員の体制構築に取り組んだ。

営業を取り巻く環境への対応として、訪問型の営業活動と非訪問型の営業活動を有効的に組み合わせることなどにより業績効果を高めた。

また、職員の重点業務として、上記の新たな法人委託の開発をはじめ、事業所・特約店などの渉外業務の強化などを進めた。なお、重要課題としていた、視聴者対応に伴うトラブルなどを防ぐために、訪問要員の育成指導業務を一層強化するとともに、中国ブロックの法人委託全訪問要員を集めたマナーアップ講習会を実施するなど、指導強化を図った。

さらに、民事手続きの活動では、これまで通り訪問や文書を通じて誠心誠意丁寧な説明による説得活動を行うとともに、民事調停を活用した取り組みを積極的に行うなど、公平負担の徹底に努めた。

放送受信料の免除関連では「平成30年7月豪雨」により中国地方において被災された人たちにに向けて、免除制度についての周知活動や免除手続き等での丁寧なお客様対応を行った。

四 国

I. 放送

1. 放送の概要

〔松山局〕

7月に四国を襲った西日本豪雨で愛媛県は大きな被害を受けた。山は崩れ、川は氾濫、尊い命が奪われた。松山局はテレビ・ラジオで大雨関連ニュースを厚く伝えたほか、被災地に向けた生活情報は「四国ライフライン情報」できめ細かく伝えた。データ放送やホームページ、逆L字放送なども使って多面的に情報を発信した。豪雨直後に『四国らしんばん』『“最悪”の雨～緊急報告豪雨被害～』(G, 7.13)で災害の全容や背景を伝えた。その後も特集番組『西日本豪雨から1か月』『ふるさとの声』(G, 8.9)、『復興誓い 力人(ちからびと) 集う～西予市野村町 伝統の乙亥大相撲 生中継～』(R1, 11.27)、『四国らしんばん』『よみがえれ“みかんの谷”～豪雨から半年の記録～』(G, 1.11)など被災地の人々の思いや復興に取り組む様子などを伝えた。

命と暮らしを守る放送に全力に取り組む放送局として防災・減災につながる番組を積極的に編成した。『愛媛防災シンポジウム』『避難～その1歩が生死をわける～』(G, 6.24)は災害時の命を守る避難などについて考えるシンポジウムのもようを伝えた。『四国らしんばんスペシャル』『南海トラフ巨大地震から命を守る～平成の“記憶”の新时代へ～』(G, 3.8)では、平成の時代に起きた大災害を検証し、南海トラフ巨大地震への備えとして、住宅の耐震化や津波からの避難方法、SNSの活用方法など最新の防災情報を伝えた。

金曜午後7時30分に新番組を開始。県域番組の『ひめDON!』は、月1回、“視聴者の疑問をとことん調査!”をコンセプトに「あなたの知らない 地元メシ」(G, 4.13)、「東予の祭りを調査!」(G, 10.12)、「愛媛が生んだ次世代スター!期待の“ジューダイ”大調査」(G, 3.1)など地域の視聴者の知的好奇心に応える番組を放送した。

また、新たに開始した四国ブロック向けの『ぐるっと四国 軽四キャンピングカーがゆく』は、地域で出会った人々との交流を通じて、四国のさまざまな魅力を伝えた。

18年度は瀬戸大橋開通から30年、全国高校野球選手権が第100回を迎える節目の年であった。こ

の機会を捉えて、『四国らしんばんスペシャル』『橋は四国をどう変えたか～瀬戸大橋開通30年～』(G, 4.20)では橋とともに切り開いてきた四国の30年を振り返り、将来を考える内容を放送した。高校野球は県域向けに『ひめDON!』『愛媛県の高校野球史を調査!』(G, 7.13)、四国ブロック向けに『四国らしんばん』『夏の全国高校野球郷土とともに 四国球児の“100回”』(G, 7.20)でこれまでの名勝負などを伝えた。

金曜夜8時台は四国の多彩な魅力に迫る特集番組『もっと四国』を放送。「前園真聖 自転車へんろ旅」は四国八十八か所霊場全長1,400キロの道のりを自転車で回る台本なしのぶっつけ旅番組で四国の人気シリーズとなった。新たな開発番組として『もっと四国音楽祭2018』(G, 10.5)を放送。地域貢献イベントとして実施するとともに、徳島出身のアンジェラ・アキに四国のテーマソング「ふるさとの色」の制作を依頼し、披露した。「絶景 石鎚山」(G, 4.13)はスーパーハイビジョン(4K)で撮影し、勇壮な姿を伝えた。「8人の伊丹十三」(G, 12.7)は「マルサの女」などで知られる松山ゆかりの映画監督・伊丹十三について、妻であり俳優の宮本信子やリリー・フランキーなど8人のクリエイターたちが語り尽くした。

全国放送では、『ドキュメント72時間』『島へ山へ 走る図書館』(G, 5.18)は松山市内を走る40年以上の歴史がある移動図書館に密着した。『俳句甲子園2018』『僕だけの／私だけの17音』(E, 9.10)は人気声優の起用などでネット上で大きな反響があり、『NET BUZZ』(G, 9.20)にも展開した。『目撃!にっぽん』『左手がつむぐ希望のメロディー』(G, 12.16)は左手だけで演奏するピアノ曲のコンクールに出場した愛媛の8歳の男の子の挑戦などを追った。『世界はほしいモノにあふれてる～旅するバイヤー 極上リスト～』『“物語”のあるアンティークを探す旅 フランス』(G, 3.14)は南フランスで世界に1つだけのアンティークを探し求める松山市のバイヤーの姿を伝えた。『SNSで分析!あなたの知らないNEO方言』(R1, 8.14)は全国の新しい方言をデジタル連動で伝えた。

平日夕方の地域ニュース情報番組『ひめボン!』は特集コーナーとして、平成の30年間に愛媛が刻んだ記憶をたどる「えひめ平成の記憶」や「西日本豪雨 被災地の今」などを伝えた。11月の愛媛県知事・松山市長選挙では、豪雨対策や雇用確保など県や市の課題を候補者の主張と合わせ

シリーズ企画で伝えた。また「選挙一口メモ」を記者解説で伝えたほか、特集ホームページで動画を公開し、有権者への情報提供に尽力した。

四国応援プロジェクト「ハッとホッとずっと」キャンペーンを開始した。ふるさと四国への思いを胸に活躍する人たち、四国で頑張る人たちへのインタビュー番組『ずっとしこく』や四国各局のアナウンサーが出演するスポットを「ふるさとの色」をBGMに放送するなど親近感醸成に努めた。

〔高知局〕

18年度は、県民の命と暮らしを守る報道の強化とともに、地域情報の発信を増やし、県民から信頼される情報発信拠点となるよう取り組んだ。平日夕方のニュース番組『こうちいちばん』、R1の『とさらじお』、『南海地震に備えちよき』(R1, 2.23)、『四国らしんばんスペシャル』、『南海トラフ巨大地震から命を守る～平成の“記憶”の新時代へ～』(G, 3.8)などの番組で最新の情報を伝え、県民に災害に備えることの重要性を改めて喚起した。また、9月に「四国4局合同緊急報道訓練」、3月に「災害対策ブロック訓練」を実施し、災害時の緊急報道体制を強化した。

西日本豪雨・台風対応では、いち早くL字放送を開始した。さらに特設ニュース・データ放送・災害情報ページなどで最新の情報をきめ細かく伝えた。L字放送は延べ17日間行った。

地域番組では金曜夜に『とさ金』(G)を新設。年間11回放送し、「25歳女子 林業に夢中」(6.1)、「どう見直す 教員の長時間労働」(2.1)、「突然の運休 宿毛フェリーの行方は…」(3.1)など地域の魅力や課題を取り上げた。『とさらじお』では11月から「らじる★らじる」での公開を開始した。

全国番組では、『第38回 全国豊かな海づくり大会 高知家(こうちけ)大会』(G, 10.28)で天皇皇后両陛下の最後の「三大行幸啓」の様子を伝えた。『あさイチ』『JAPA-NAVI 高知』(G, 4.26)、『探検バクモン』『拝啓 坂本龍馬殿』(G, 5.23)、『インタビューここから』『山本一力』(G, 9.24)で高知の魅力を、『目撃! につぼん』『“ひとりじゃないよ”と伝えたい』(G, 1.20)で高知で奮闘する人々の姿を伝えた。65回目となる「よさこい祭り」は生放送と録画を含め計約5時間の放送を行った。

公開番組では、『とさらじお』『出張! とさらじおinまんさい』(11.4, 高知市)、『とさ金』『未来のジョン万次郎は君だ! クイズで挑戦! ジョンマンスピリット』(11.17, 高知市)などを実施した。

スポーツでは、四国アイランドリーグplusや天皇杯サッカー高知県大会決勝、全国高校野球選手権高知県大会などを中継。『とさ金』では2回にわたり、100回大会を迎えた高校野球を取り上げた。県在住の車いすラグビー日本代表の主将・池透暢選手の活躍を海外取材を含めて伝えた。

また、県内民放3社と協力した共同キャンペーン「みてみて高知12468(ワンツーヨーロッパ)」では、視聴者から募集した映像を各局共通で放送したほか、4局のキャスターが県内のイベントに参加してテレビ視聴を呼びかけた。

〔徳島局〕

西日本豪雨や台風に対しては、特設ニュースに加えL字でも避難情報や被害情報、各種の影響などを放送し、データ放送・インターネット・防災アプリにもマルチ発信して、多くの県民に伝えた。『とく6徳島』では、企画コーナーとして「四国防災八十八話」を立ち上げ、県民の防災意識向上に努めた。また、国が定めた南海トラフ巨大地震の臨時情報の運用開始を受け、徳島大学と共同で四国の高齢者施設にアンケートを実施し、見えてきた実情をローカル放送のほか、『NHKニュース7』などの全国放送でも伝えた。

18年度、阿波・徳島を愛する人のための番組として金曜夜に新番組『あわとく』を立ち上げ、徳島の人や食の魅力・防災・スポーツなど、多彩なラインナップで、年間18本を放送した。

運営を巡って混乱した徳島市の阿波おどりについては、経緯や日々変わる状況をニュースで伝えたほか、『あわとく』では、生放送で徳島市長に尋ねた。その後も『あわとく』で2回にわたって阿波おどりを特集し、踊り子たちの熱演のもようや、今後の課題を伝えた。

『とく6徳島』では県内のニュースを分かりやすく伝えるとともに、地域の魅力を伝えるさまざまなコーナーを放送した。そして、放送を見逃した方のために、ホームページでは、「とく6セレクション」「ニュースな阿波女」「ぶら★キャン」などのサイトを設けて動画を掲載し、さらに、ツイッターで毎日、番組内容をツイートして、番組視聴者層の拡大に取り組んだ。

全国放送の特集番組としては、100年前に徳島県鳴門市で、アジア初となるベートーベン「第九」の演奏がドイツ人捕虜により行われて以来続いていた日独の交流を、「第九」の力強い歌声とともに描いた『BS1スペシャル』『FMシアター』をそれぞれ8月、12月に放送した。また、歴史上の人物のさまざまな知恵を紹介する『先人たちの

底力 知恵泉（ちえいず）』で、徳島にゆかりのある薬学者の長井長義、社会運動家の賀川豊彦を取り上げ、7月、12月に放送した。

このほか、サッカーJ1への昇格を目指す「徳島ヴォルティス」の11月のホーム最終戦や、四国アイランドリーグplus「徳島インディゴソックス」の5月の試合を中継し、地域と一体となって地元チームを応援した。

4K・8K本放送開始初日の12月1日に、阿波藍の伝統技法を守り続ける藍師と藍染め師の四季を記録した徳島局制作の25分番組『阿波藍の四季～究極の色彩を求めて～』をBS4Kで放送したほか、企画やミニ番組の取材を通して、4Kコンテンツの蓄積を進めた。

【高松局】

7月の西日本豪雨や、7～9月の台風報道では、テレビのL字画面とデジタルメディアによる情報提供をいち早く開始し、それぞれ約13～45時間にわたり、避難の呼びかけや交通影響などの情報を細かく発信した。テレビやラジオでも特設ニュースなどを随時放送し、県内の最新情報を伝えた。NHKが開発した高品質の気象動画を作画できるNMAPSが高松局に配備され、豪雨や台風の際には、雨雲の予想などの動画を気象予報士が解説で活用した。

瀬戸大橋開通30年を記念して、平日午後6時台の香川県域のニュース・情報番組『ゆう6かがわ』では、高松局と岡山局が制作したシリーズ企画を4月に7日間放送したほか、開通記念日に両局のキャスターが橋の架かる島に集結し、香川・岡山両県に向けて生放送で伝えた。さらに、両局制作の番組を2本続けて特別編成して放送した。

8月の香川県知事選挙では、情勢取材や出口調査などを基に、開票開始とともに現職の当選確実を報じたほか、県域の開票速報をテレビは3回、ラジオは2回放送した。

パラ陸上の国内最高峰の大会、日本パラ陸上競技選手権が9月に高松市で開かれ、『ゆう6かがわ』で解説や企画を3回シリーズで放送したほか、県域のラジオ番組『まんて香川きっきょん！？』でも、地元出身のパラ陸上選手をゲストに迎えて放送した。

毎年、まんのう町で開かれる、中四国最大級の野外音楽イベント「MONSTER baSH」（8月）を収録し、BSプレミアムなどで放送したほか、『コレマジ！？さぬきうどん伝説 3玉目』（BSPなど、6月）や、『あさいち』（11月）で、讃岐うどんの奥深い世界を紹介した。さらにNHKワール

ド JAPANの四国特集（10月）で、国の特別名勝の栗林公園から中継を行い、盆栽の魅力などを英語でレポート、『旬感☆ゴトーチ！』（12月）では、“こんぴらさん”の愛称で知られる金刀比羅宮の最上段と最下段から同時生中継を行うなど、香川県の魅力や話題を全国や海外に向けて発信した。また、児童虐待が社会問題になる中、『四国らしんばん』で、児童相談所に密着取材した「揺れる児童相談所～虐待対応の現実と葛藤～」（2月）を放送した。

地域サービスの充実を目指し、高松市で開催した『NHKのど自慢』（10月）では、会場に高松局が制作したバーチャルリアリティー（VR）映像を体験できるコーナーを設けたほか、「NHK全国学校音楽コンクール・香川県コンクール」（8月）では、県域のラジオ番組に加え、『ゆう6かがわ』で全出場校の歌声を紹介した。

2. 地域放送番組

（1）定時番組

『おはようえひめ』 G

各県域（一部四国ブロック）
月～金 7:45～8:00

第1回93.4.5／最新情報や四国の動きを伝えるニュース番組。日々のニュースとともに、災害への備えや人口減少など地域の課題についてのレポートを放送。気象コーナーでは、四季折々の気象や天気、出かける際の注意点などを伝えた。／各局タイトル：高知『おはようこうち』、徳島『おはよう徳島』、高松『おはようかがわ』

『おはよう四国』 G

四国ブロック 土 7:30～8:00

第1回93.4.10、最終回19.3.30／週末の朝にふさわしく、爽やかに、そして役立つ情報を伝えることが番組のコンセプト。四国の魅力を再発見する企画「四国プラス」では、各局のリポーターが、旬の食べ物や話題、伝統の技などを取材し、スタジオで紹介。西日本各地を巡る「西日本の旅」や週末のイベント情報を案内する「ウイークエンド・ナビ」を継続して放送した。

『四国おひるのクローバー』 G

四国ブロック 月～金 11:30～11:54

第1回17.4.3／四国全域に向け、暮らしに役立つ情報を伝える番組。四国各県から料理人やハンドクラフト、インストラクターなどの専門家が出演した。前半は、四国の各放送局のスタジオからキャスターが各県の話題を伝えた。後半は、月曜は「楽しく！うちごはん」。火曜は映像を基に俳

句を募集する「ムービー俳句！」や、絵手紙を募集して紹介した。水曜はインテリア雑貨など暮らしに取り入れたいノウハウを学ぶ「教えて！ひるクロ先生」。木曜は、健康の参考になる「お手軽！エクササイズ」。金曜前半は、四国の旬の食材と郷土料理、地域を元気にする人をロケ取材で紹介した。金曜後半は、県域ごとの放送。身近なイベント情報やお知らせなどを放送した。四国気象コーナーは、気象予報士が天気ワンポイントを交えながら伝えた。

『ひめボン！』 G

各県域 月～金 18:10～18:59

第1回16.4.4/愛媛県域/「地域が見える、人が見える」をキャッチフレーズとする平日夕方のニュース情報番組。県内で33人が犠牲になった7月の西日本豪雨では、遺族の思いや復旧・復興に向けた動きなどを放送枠の拡大も含め丁寧に伝えた。四国に相次いで接近した台風では、ローカル優先の方針のもと、四国各地の現状や見通しを中継も交えて、きめ細かく伝え、避難の呼びかけを強めた。11月の愛媛県知事・松山市長選挙では、豪雨からの復興や人手不足への対応など県や市の課題を候補者の主張や記者解説も交えて分かりやすく伝えた。また、4月に発生した、今治市の刑務所から受刑者が逃走した事件では、3週間にわたって逃走した経緯や逃げた動機などを詳しく伝えた。/各局タイトル：高知『こうちいちばん』、徳島『とく6徳島』、高松『ゆう6かがわ』

『ひめDON！』 新 G

県域 金 19:30～19:55

第1回18.4.13/地元・愛媛の素朴な疑問や知りたいテーマを“どんどん”調査し楽しく伝える番組。今や「地元メシ」を代表する「鯛めし」の意外なルーツや、松山市の路面電車運行の舞台裏、東予地方で盛り上がる秋祭りに懸ける人々の思いなどを探ったほか、西日本豪雨で被災した南予地方の復興への取り組みなども伝えた。

『とさ金』 新 G

県域 (第1週) 金 19:30～19:55

第1回18.4.13/高知の食や歴史を扱ったエンターテインメントから、地域の課題に向き合うドキュメンタリーまで、県民の幅広いニーズに応える番組を目指し、18年度は11本制作。初回は高知大学の学生寮を旅立つ卒業生の人間模様を描いた。ジョン万次郎をテーマにした視聴者参加のクイズ番組や、高知の高校野球100年の軌跡、教員の長時間労働を扱った番組などを放送した。

『あわとく』 新 G

県域 (第1週) 金 19:30～19:55

第1回18.4.13/阿波・徳島を愛する人のための番組として、エンターテインメントから防災・観光・スポーツなど、徳島の“これから”を考える企画まで多彩にラインナップした。このうち、阿波おどり関連では「どうなる？阿波おどり～遠藤市長に問う～」(7月)、「徳島 阿波おどり2018」(8月)、「阿波おどりの未来を考える」(11月)の3本を放送。防災関連では、「南海トラフ巨大地震 どういかに？命を守る“臨時情報”」(12月)を放送した。

『さぬきドキっ！』 新 G

県域 (第1週) 金 19:30～19:55

第1回18.4.13/香川の骨太のドキュメントから生活に密着した情報、ディープな地元の話題まで情報満載の番組を目指し、18年度は13本制作。初回は、開通30年の瀬戸大橋周辺を旅する45分のスペシャル版を放送。また、NBA(アメリカプロバスケットボール)に、日本人選手として2人目のデビューを果たした香川県出身の渡邊雄太選手や、『NHKのど自慢』の舞台裏に密着した番組などを放送した。

『四国らしんばん』 G

四国ブロック 金 19:30～19:55

④土 10:55～11:20

第1回00.3.31/四国が抱える課題や地域活性化への取り組みなどを伝える報道情報番組。18年度は「橋は四国をどう変えたか～瀬戸大橋開通30年～」[揺れる児童相談所]などタイムリーな話題に加え「南海トラフ巨大地震から命を守る」など災害に備える番組、そして里山の風景を守る若者を描いた「それでも石を積みつづける」など四国に生きる人々のドキュメンタリーを放送した。西日本豪雨に関連し、「最悪の雨」や「よみがえれ“みかんの谷”」など、継続して被災地の現状、そして復興への動きを記録し、伝えた。

『もっと四国』 新 G

四国ブロック 不定期 金 19:57～20:40

④日 13:05～13:48

第1回18.4.13/遍路などの文化や歴史、個性あふれる食、豊かな自然や祭りなど、四国の多彩な魅力に迫る特集番組。サッカー元日本代表の前園真聖さんが四国八十八か所霊場を自転車で巡るぶっつけ本番の旅「前園真聖 自転車へんろ旅」をシリーズで放送したほか、恒例の夏祭り「土佐の夏2018よさこい祭り」、「徳島 阿波おどり2018」、地域貢献イベントとして行った『もっと四国音楽

祭2018』、さぬきうどんのディープな世界を紹介する「コレマジ!? さぬきうどん伝説 3玉目」、スーパーハイビジョン(4K)撮影で勇壮な姿を伝えた「絶景 石鎚山」、松山ゆかりの映画監督・伊丹十三について、8人のクリエイターたちが語り尽くした「8人の伊丹十三」ほかを放送した。

『四国おはようネットワーク』 R1

四国ブロック 月～金 7:40～7:58
土 7:40～8:00

第1回93.45 最終回19.3.30/最新の気象情報、ニュースのほか、四国各地の朝の様子や話題を、各県の「おはようリポーター」が電話で伝えた。このうち、月曜は「防災ネットワーク」で、四国の災害の研究者や防災関係者に、南海トラフ巨大地震への備えや災害時の対応などを聞いた。このコーナーは松山局の防災ポータルサイト「防マガ」と連動、原稿や放送は「防マガ」にも掲載した。土曜は、四国各地の俳句関係者と伝える「俳句ネットワーク」。1つの季語にまつわる作品の紹介やその奥深さなどを伝えた。祝日は四国ゆかりの文芸作品を、各局のアナウンサーなどが朗読する「特集・四国を読む」を放送した。

『ラジオまどんな』 R1

県域 月～木 17:05～17:55

第1回16.4.4/夕方ひととき、愛媛の人と一緒に楽しむ内容。前半は、地域で活躍している人のトークコーナーをはじめ、俳句や音楽、映画などを毎月特集で取り上げた。後半は「食のカレンダー」「若者調査隊」「イベント情報」など多彩な話題をコンパクトに伝えた。リクエスト音楽やメール、お便りも毎回紹介した。

『四国だ! ゴーゴー』 R1

四国ブロック 金 17:05～17:58

第1回14.4.4/ファッション・音楽・地域情報・お悩み相談など「聞いて得する・共感する」をコンセプトに多彩な話題を伝えた。お便りやメールの紹介のほか、四国の95ある市町村のすべてを紹介していく「四国だ! スクエア95」、リスナーをほっこりさせる話題を伝える「四国しあわせニュース」などを放送した。ほぼ月1回「日本列島ふるさとラジオ」として、全国に向けて放送した。

『とさらじお』 R1

県域 月 17:05～17:55

第1回16.10.31/ゲストコーナー「土佐がいちばんじゃき!」では、ダンサー、NPO代表、醸造家など、高知県で活躍する多彩な分野のゲストとの生トークを届けた。「防災かまえちよき」では最新の防災情報を紹介した。11月4日に番組初

の公開収録を実施。その模様を伝えた11月26日放送分から、「らじる★らじる」での聴き逃しサービスを開始、全国からのアクセスが可能となった。

『あわ☆メロR』 R1

県域 (最終週) 月 17:05～17:55

第1回17.1.30/鳴門市在住のシンガーソングライター・板東道生さんをメインパーソナリティーに迎え、徳島のフレッシュでエネルギッシュな若者の情報を紹介。また、高校生の朗読による防災コーナーや地元のアイドルグループの電話インタビューコーナーも設け、若い世代への接触率の向上を目指した。番組ホームページにはメッセージ投稿フォームを設置。リスナーから寄せられたメッセージは放送中に随時紹介した。

『まんて香川きつきょん!?』 R1

県域 (最終週) 月 17:05～17:58

第1回17.4.24/香川県ゆかりの多彩なゲストを毎回迎え、アマチュア落語家のDJとともに、身近で親しみやすい放送を心がけた。防災に関するインタビューも放送した。また、瀬戸大橋開通30年を記念して高松局が実施したイベント(6月)や、高松市出身の作家・菊池寛の生誕130年を記念した作品朗読会(9月)、「全国年明けうどん大会」(12月)では、公開放送を実施した。

(2) 特集・特別番組

『四国ブロック』

『アイデア対決・高専ロボコン2018—四国地区大会—』 G

松山局 11.23/10:05～10:59

『Nコン2018 第85回NHK全国学校音楽コンクール 四国ブロックコンクール 小・中・高等学校の部』 E

松山局 9.22/14:00～17:00

『Nコン2018 第85回NHK全国学校音楽コンクール・各県コンクール』

「愛媛県」E 8.25 「高知県」FM 8.24

「徳島県」FM 8.27 「香川県」FM 8.25

『愛媛県域』

『愛媛防災シンポジウム』「避難～その1歩が生死をわける～」 G

6.24/13:05～13:48

『ら♪ら♪ら♪ ラジオです ラジオ3局合同特別番組』「防災に生かそう ラジオの力」 R1

3. 8/14:00～14:55

3. スポーツ中継

『高校野球』

全国高校野球選手権大会・各県大会

〔各県域〕

愛媛県	準決勝	G・E・R1・FM／	7.26
	決勝	G・E・R1／	7.27
高知県	準決勝	G・R1／	7.25
	決勝	G・R1／	7.26
徳島県	準決勝	G・E・R1／	7.25
	決勝	G・R1／	7.26
香川県	準決勝	G・E・R1・FM／	7.21
	決勝	G・E・R1／	7.22

秋季四国地区高校野球・各県大会

〔各県域〕

愛媛県	準決勝	R1・FM／	10.13
	代表校決定戦・決勝	R1・FM／	10.14
高知県	準決勝	R1／	10.13
	決勝	R1／	10.14
香川県	準決勝	R1・FM／	10.13
	決勝	R1／	10.14

秋季高校野球四国大会（四国ブロック）

準決勝	G・E・R1・FM／	11. 3
決勝	G・E・R1・FM／	11. 4

〔全日本サッカー選手権〕

〔各県域〕

〔地区大会〕

愛媛県	代表決定戦	G／	5.13
高知県	代表決定戦	G／	5.13

〔NHK杯中学校サッカー大会〕 E

〔徳島県域〕

「川内中学校」対「城西中学校」
5.12

〔サッカーJリーグ中継〕 G

〔愛媛県域〕

「愛媛FC」対「FC町田ゼルビア」
11.11

〔徳島県域〕

「徳島ヴォルティス」対「アルビレックス新潟」
11.11

〔香川県域〕

「カマタマーレ讃岐」対「アビスパ福岡」
4.28

〔新潟・香川ブロック〕

「カマタマーレ讃岐」対「アルビレックス新潟」
10. 6

〔四国アイランドリーグplus中継〕

〔愛媛・高知ブロック〕 R1

「愛媛マンダリンパイレーツ」対「高知ファイティングドッグス」
5.25, 31

〔徳島・高松ブロック〕 R1

「徳島インディゴソックス」対「香川オリーブ
ガイナース」
5.25

〔香川県域〕 R1

「香川オリーブガイナース」対「高知ファイテ
ィングドッグス」
4.26, 9.13

〔乙亥大相撲〕 R1

〔愛媛県域〕

『復興誓い 力人（ちからびと）集う～西予市野
村町 伝統の乙亥大相撲 生中継～』
11.27

II. 技 術

1. 放送機能の強化

南海トラフ巨大地震により、高知放送会館が機能喪失した場合に備えて、松山局発の四国ブロック放送を継続するためのCS受信設備を朝倉サテライトスタジオに整備した。地震などで商用電源が喪失した場合にも運用が可能な伊方原発第2カメラを新規に整備し、3月には既存の伊方原発第1カメラの太陽光発電パネルを増強した。また、携帯電話会社の鉄塔などのインフラを活用したネットワークロボカメを四国ブロック内に設置した。

放送所施設では、高知・窪川TV、徳島・三頭山TV固定局の自家発燃料タンクを200時間放送継続できるように増量し、愛媛・宇和島Rについては津波対策としてFM補完中継局を5月に開局した。また、基幹放送所の被災に備えて、松山局と高知局において非常用テレビ・ラジオの送信設備を整備した。

2. 地域放送の充実

4K高精細映像による地域の魅力を発信する番組として『4 Koku巡り旅』を制作した。『もっと四国音楽祭2018』では良質なエンターテインメント番組を制作し、「四国に音楽で力を！」をテーマに魅力ある番組制作を行った。10月にはNHKワールド JAPANのニュースの中で四国のキャラバン中継を実施し、しまなみ海道や栗林公園など四国4県の魅力を世界に発信した。また、夕方の愛媛県域番組『ひめボン!』でもデータ放送を使ったクイズやアンケートを毎週実施した。

NHK・南海放送・FM愛媛による3局合同生放

送『ら♪ら♪ら♪ ラジオです ラジオ3局合同特別番組』「防災に生かそう ラジオの力」をR1で3月に放送し、聴取者の防災意識向上と災害時のメディアとしてのラジオの浸透を図った。

3. 放送設備の整備

松山放送会館の無停電電源装置の更新や受水槽・給排水ポンプおよび個別空調機の更新など、会館の電源インフラの整備を進め、放送システムの信頼性を高めた。

放送電波の安定確保については、テレビ中継局の放送機更新（西讃岐局ほか5局）、ラジオ・FM中継局の放送機更新（今治Rほか3局）を実施した。また、自営回線の安定運用のため、西讃岐TV、小豆島TV、新居浜FMの各自営回線を更新した。このほか高知県のラジオ難聴を改善するため、仁淀・幡蛇ヶ森・東津野のFM補完3局を開局させた。

映像・音声編集室のファイルベース化更新では各編集機をネットワークで結び、従来のテープ運用と比較して短時間でより効率的な操作環境を実現し、高度な映像合成が可能となった。

4. 緊急報道・選挙報道

4月の松山市議会議員選挙、11月の愛媛県知事選挙および松山市長選挙では、開票速報や知事選の政見・経歴放送において、公平で正確・迅速な放送を行った。

7月の西日本豪雨災害報道では、災害現場の野村町が携帯電話不通のため、連絡系統をスカイホンで構築して、CSK（衛星中継車）から現場の状況を的確に視聴者に伝えながら、会館では特設ニュース対応やライフライン放送のスタジオ構築を行った。また、避難所へのテレビ設置を迅速に実施し被災者への災害情報の伝達に努めた。放送所やNHK共同受信施設については、NHKアイテックと連携して被災状況の把握と停電した放送所の電源確保を実施した。また、土砂災害による出向路被害を把握しながら放送所の機能維持と電波確保を図った。

台風などの災害時に特設ニュースや速報スーパー、L字放送、ライフライン放送など、公共放送としての使命を果たす緊急・災害報道に的確に対応し、安全・安心を支えた。

9月と3月に南海トラフ巨大地震などを想定した四国4局合同の緊急報道訓練を実施し、CS経由での管中ニュース配信や、高知局今ノ山FPU基地局を松山から衛星制御し、ヘリ映像を受信す

る訓練など、新たな想定も盛り込んで取材からニュース送出までの運用フローを確認した。

2月には高松ヘリポートで四国・技術ヘリ要員スキルアップ研修を実施し、ヘリリポートのスキル向上と搭乗スキル所持者の拡大を図った。

5. 良好な受信環境の確保と4K・8K普及推進

老朽化したNHK共同受信施設の安定受信を図るため、光ファイバー方式による大規模改修工事を川崎（愛媛県）、北山東（高知県）など26施設で実施した。視聴者からの電話による受信相談（約5,200件）や訪問による技術調査（約460件）を通して安定した受信環境の維持を図った。

また、4K・8Kスーパーハイビジョン普及のため、A-PAB・JEITA・CATV連盟など関連業界と連携して、電器店や工事店を対象とした技術セミナーを四国各地（徳島・高知・松山市）で開催した。松山市の海の玄関口である松山観光港のターミナルロビーに8Kモニターを設置し、四国にゆかりのあるコンテンツを上映して、4K・8Kスーパーハイビジョン普及推進に取り組んだ。

Ⅲ. 視聴者

1. 広報

〔松山局〕

（1）地域番組等の番組広報

四国のNHK各局が地元視聴者との距離を縮め、NHKに親しみを持ってもらうための「ハッとホッとずっと」キャンペーンを開始。

愛媛県向け新番組『ひめDON!』、四国向け新番組『ぐるっと四国 軽四キャンピングカーがゆく』などの地域放送番組と、「ハッとホッとずっと」の大型看板広告を4月に松山市中心街に掲出したほか、主要駅のサイネージや街頭ビジョン、アーケード商店街や鉄道車内の吊りポスター広告などを展開し、県内視聴者への浸透に努めた。

また、年間を通じて、松山局制作の番組の愛媛新聞テレビ欄色づけ広告を実施。そのほか、愛媛新聞やタウン情報誌への記事広告掲載や、会館1階ロビーでのキャスターなどの等身大パネルの展示など、各種PRを展開した。全国放送の『俳句王国がゆく』では、放送回ごとに番組紹介用のチラシも作成した。

（2）地域のみなさまとの絆を強化

4月には、「大河ドラマ『西郷どん』全国巡回

展」(4.3~8)を開催。夏休み期間には、家族単位での特別会館見学イベント「夏休みファミリー見学」(7.30~8.3)を実施し、65家族215人が参加した。

11月には「えひめ・まつやま産業まつり」と連携した会館公開「NHKふれあい秋まつり2018」(11.24~25)を開催。四国域内で放送している「前園真聖 自転車へんろ旅」ステージや「ワンワンとあそぼうショー」などの番組と連動したトークショーやキャラクターショー、NHKの災害への取り組みを紹介した「西日本豪雨被災地VR」や「どーもくん防災ステージショー&防災ヨガ」、「4K・8Kスーパーハイビジョンパーク」などを展開し、2日間で1万3,600人が来場した。

会館1階ロビーのアートギャラリーでは、地域の趣味サークルなどの団体による幅広い分野の展示を年間39回(うちNHK主催「大河ドラマ『西郷どん』全国巡回展」「はくの絵わたしの絵展」各1回)実施し、入場者数は4万118人。また、団体見学者は、小学5年生を中心に77団体3,397人、来局者の総数は9万3,060人。そのほか、総合パンフレットを、春夏号と秋冬号の2回作成して配布した。

(3) 4K・8K受信公開等

会館1階ロビーで、65型4Kモニターと85型8Kモニターを常設し、松山局制作番組の上映や、スポーツ等の受信公開を実施。来局者が自由に視聴した。また、松山観光港の乗船待合スペースにも8Kモニターを新たに設置。乗船客がいつでも四国各局で制作した8K番組を視聴できる環境を整備した。

(4) 迅速、的確、誠実な視聴者対応

電話、メール、手紙、来局などにより松山局へ寄せられた質問・意見・要望は、年間で2万574件。松山局内の各部署と連携して対応するとともに、番組や業務改善などに反映させた。

〔高知局〕

6月に高知市中心アーケードで『こうちいちばん』の大型ペナント広告を掲出したほか、気象予報士が監修した熱中症予防カードを3,000部作成し、来館者やイベントなどで配布。また、3月に気象予報士自筆のイラスト展を高知局ロビーで実施し、2日間で約350人が来場した。

『大河ドラマ』『西郷どん』で坂本龍馬が登場する8月下旬に「大河ドラマ『西郷どん』全国巡回展」を高知市で開催し、1週間で約2,500人が来場した。

11月には『とさらじお』の公開収録を「こうち

まんがフェスティバル」の会場で実施した。

〔徳島局〕

6月に、アジアで初めて「第九」が演奏された場所と言われる徳島県鳴門市で、その初演から100周年を迎えた記念事業として「第九フェスティバル」を開催した。また、2018 FIFA ワールドカップ ロシアにあたり、日本戦のパブリックビューイングを行った。

8月には、恒例の「熱演!真昼の阿波おどり」を3日間にわたって会館1階ロビーで開催。イベントの様子は、Eテレで県内向けに放送するとともにホームページでも動画公開した。

10月には、徳島市で開催されたアニメイベントに合わせて、「NHKアニメ館ひろば」を会館1階ロビーで開催。徳島局のアナウンサー・キャスターをイラスト化したパネル展示や、イラストで装飾した中継車を公開した。

12月に本放送を開始した4K・8Kの普及促進を目的として、本放送開始当日以降の会館受信公開に加え、11~2月にかけて県内各所(「秋の阿波おどり」「4K・VR徳島映画祭」「海部川風流マラソン」等)で受信公開イベントを実施。

また、『あわとく』は12月収録の「ザ・ディレクションin徳島」、2月収録の「ひたすら^{ほんよう}へヴォルティスJ1復帰への道」で、徳島局の汎用スペースに観客を入れ公開収録した。

〔高松局〕

平日夕方の『ゆう6かがわ』では、SNSを使った広報や、岡山局との共同広報を行った。

8月に中四国最大級とされる野外音楽フェスを番組化。ホームページでは特設サイトを制作した。

12月1日の本放送開始を受け、4K・8Kを「さぬきうどん」イベントでPRした。また、会館ロビーには本格的な「8Kシアター」を常設しており、18年度は2,900人を超える観客が訪れた。

また、会館内のふれあいギャラリーは、地域の文化サークルなどの団体による展示会や作品発表の場として、年間18回(うちNHK主催「はくの絵わたしの絵展」「大河ドラマ『西郷どん』全国巡回展」各1回)実施し、約4,500人が入場した。

2. イベント事業

18年度、四国地方では113件のイベントを実施し、9万4,000人の視聴者が参加した。

(1) 全国放送公開番組

『NHKのど自慢』『俳句王国がゆく』など15本の全国放送公開番組を四国各地で実施した。

(2) 教育・子どもイベント

「NHK全国学校音楽コンクール」「NHK杯中学校・高校放送コンテスト」(四国各局)、「高専ロボコン四国地区大会」(高松局)などの教育イベントや、「おかあさんといっしょファミリーコンサート」(高松局)、「ガラピコぷ〜小劇場」(高知・徳島局)などのファミリー向けイベントを実施した。

(3) 展覧会

「第65回日本伝統工芸展」(松山・高松局)を実施した。

(4) 音楽イベント

「N響松山定期演奏会」(松山局)、N響メンバーが学校を訪ねる「NHK子ども音楽クラブ」(松山局)を実施した。

(5) 福祉・キャンペーンイベント

「NHK歳末たすけあい・海外たすけあい」(四国各局)をはじめ、「NHKハート展」(徳島局)、「ふるさとの食にっぽんの食 地域フェスティバル」(徳島局)、「愛媛防災シンポジウム」(松山局)など全国キャンペーンと連動したイベントを実施した。

(6) スポーツイベント

「ラジオ体操・みんなの体操会」(松山・徳島・高松局)、「各県サッカー選手権大会(天皇杯県代表決定戦)」(四国各局)、「NHKジュニアスポーツ教室」(高知局)のほか、地域のスポーツ大会を実施した。

(7) 地域への貢献イベント

各地域の新規企画イベントとして、「瀬戸大橋開通30周年記念・輝かナイト」(高松局)、「第九フェスティバル」(徳島局)、「ジョンマンスピリット!」(高知局)などを実施した。地域放送と連動した新しい取り組みとして地域貢献イベント「もっと四国音楽祭」を立ち上げ、徳島県鳴門市で実施した。

7月に発生した西日本豪雨災害では、現地で予定していた全国放送公開番組を1本中止したが、12月には復興応援イベントとして、被害の大きかった地域で「ワンワンとあそぼうショー」(松山局)を巡回実施した。

3. 営業

現経営計画の初年度となる18年度四国ブロックは、受信料の公平負担に向けて「支払率の向上」と「衛星契約割合の向上」に継続して取り組み、2年連続で四国全局の全営業目標を達成した。

契約収納体制の整備については、新たにエリア

型法人委託事業者4社と委託契約を締結し、18年度末には17社、20エリアとなった。併せて、広域型法人を2社から3社に増やして効果的に運用した。

各法人への要員拡充要請と育成支援による体制強化を図るとともに、視聴者に信頼される営業活動を推進し、応接マナーの向上や適正な手続きの徹底を図り、各種講習会や日常的な指導に努めた。

職員による事業所契約増加にも年度を通して注力した。各局の計画的な対策とともに合同の集中対策を行い、年間取り次ぎ計画数を確保した。

他部署との連携では、西日本豪雨災害の受信料免除および、奨学金受給等の学生免除制度の案内をホームページや放送スポット、営業職員の番組出演などで周知活動を実施した。「チャレンジ80+」活動においては、「ハッとホッとずっと」キャンペーンや地域番組の放送に合わせて広報資料を作成し、訪問員による配布のほか、特約店対応にも活用して取り次ぎの向上を図った。

このほか、民事手続きでは支払督促と未契約に対する民事訴訟、民事調停の活用などを進め、公平負担の徹底に努めた。

九州・沖縄

I. 放送

1. 放送の概要

(1) 災害・気象

九州各地の火山は、一部で活動が活発化した。このうち鹿児島県の口永良部島では19年1月17日に爆発的な噴火が発生した。噴煙が約6,000メートルまで上がり、火砕流が火口から約1.5キロメートル流れ下った。住民は一時自主避難した。

地震も相次いだ。熊本県和水町で1月3日に震度6弱、同月26日に震度5弱をそれぞれ観測した。現場からの中継を交えて、全中での放送だけでなく、九州・沖縄ブロックで特設ニュースを放送した。

九州・沖縄に接近、上陸して影響を及ぼした台風は12に上った。このうち、日本列島を西進した台風12号は18年7月29日に福岡県豊前市に上陸して南西に進み、翌30日にかけて熊本県沖に抜けて、鹿児島県沖を反時計回りに進んだ。また、9月、台風24号が非常に強い勢力で接近し、沖縄から奄美、鹿児島、宮崎へと進んだ。いずれの台風についても、随時、地域局ごとに特設ニュースを放送し、最新情報と防災・減災につながる情報を伝え続けた。

40人が亡くなった九州北部豪雨から1年となった7月5日前後には、福岡、大分両県の被災地の現状や課題を伝えた。一連の熊本地震から2年となった4月14日前後には、復興に向けた課題などについて取材。管中でシリーズ企画を組み、防災や減災の視点も盛り込んで伝えた。

(2) 選挙報道

9月30日、翁長知事の死去に伴う沖縄県知事選挙が行われ、アメリカ軍普天間基地の移設阻止を訴えた元衆議院議員の玉城デニー氏が、自民・公明両党などが支援した候補らを破り、初めての当選を果たした。最も有権者の多い那覇市の開票所などで玉城氏の優勢を確認したうえで、当選確実を打ち出した。

10月21日、那覇市長選挙が行われ、沖縄県の玉城知事や国政野党が支援した現職の城間幹子氏が、自民・公明両党などが推薦した新人を破り、2回目の当選を果たした。午後8時に当選確実を打ち出した。

11月18日、福岡市長選挙が行われ、自民党が支

持した現職の高島宗一郎氏が、共産党が推薦した新人を破り、3回目の当選を果たした。午後8時に当選確実を打ち出した。

同月18日、熊本市長選挙が行われ、自民・公明両党が推薦した現職の大西一史氏が、共産党が推薦した新人を破り、2回目の当選を果たした。午後8時に当選確実を打ち出した。

12月16日、佐賀県知事選挙が行われ、自民・公明両党が推薦した現職の山口祥義氏が、共産党が推薦した新人を破り、2回目の当選を果たした。午後8時に当選確実を打ち出した。

12月23日、宮崎県知事選挙が行われ、自民党、立憲民主党、国民民主党、公明党、希望の党、社民党が推薦した現職の河野俊嗣氏が、共産党が推薦した新人を破り、3回目の当選を果たした。午後8時に当選確実を打ち出した。

1月27日、北九州市長選挙が行われ、自民党や公明党、それに、国民民主党の市議会議員らが支援した現職の北橋健治氏が、4回目の当選を果たした。午後8時に当選確実を打ち出した。

2月24日、沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設計画に伴う名護市辺野古沖の埋め立てへの賛否を問う県民投票が行われ、「反対」の票が有権者の4分の1を超えた。条例の規定により玉城知事は、総理大臣とアメリカの大統領に結果を通知することになった。県内各地の開票所で取材を行い、午後10時20分すぎ、反対票が有権者の4分の1を超えることが確実になると速報した。

3月21日、福岡・大分両県の県知事選挙が告示され、29日には沖縄を除く7県の県議会議員選挙と、福岡市と熊本市の市議会議員選挙が告示された。

(3) 事件・事故

一度に多くの命が失われる凶悪事件や重大事故が相次いだ。

4月、鹿児島県日置市で、39歳の男が祖母や父親、親族など5人を次々と殺害したとして、逮捕・起訴された。家族への不満から殺害に至ったとみられる。

同月、大分県中津市耶馬溪町で、大規模な土砂崩れが発生、住宅4棟が巻き込まれ、6人が死亡した。

11月、宮崎県高千穂町の住宅で、小2女児を含む一家5人と知人の、合わせて6人が殺害された。この家に住む42歳の男が近くの川で遺体で見つかり、警察は男が6人を殺害した後、自殺したとみている。

鹿児島県鹿屋市の住宅型有料老人ホームでは、

9～10月に高齢者6人が死亡。その直前に介護職員8人が全員退職し、介護不足が原因とみられたが、市は調査の結果、施設に介護放棄や虐待もあったとして行政指導した。

学校現場でのいじめなどの問題もクローズアップされた。

5月、熊本県立高校の女子生徒が自殺。調査委員は、インスタグラムに男子生徒と映っていた動画をきっかけに、同級生から「死ねばいい」などと言われたことをいじめと認定し、自殺との因果関係があったと結論づけた。

6月、福岡県立高校の男子生徒が自殺。野球部員からLINEグループを外されるなどの嫌がらせを受けていたことをメモとして残していた。調査委員は部員からの嫌がらせをいじめと認定、自殺の原因となったと認定した。

9月、鹿児島市では、公立中学3年の男子生徒が2学期の始業式当日、帰宅後に自殺。このほか、各地では、以前にあった自殺について、いじめとの因果関係を認める調査結果が相次いで公表された。

インターネットのSNSを巡るトラブルなどが事件に発展するケースも目立った。

6月、東名高速であおり運転をきっかけに4人が死傷した事故を巡り、被告とは無関係の北九州市の会社が、「被告の勤務先だ」などとうその情報を拡散される被害を受け、警察は11人を名誉毀損容疑で書類送検した。

同月、福岡市でIT関係のセミナー講師が殺害された。殺人容疑で逮捕された男は被害者とは面識はなく、本名も知らない関係で、インターネット上での匿名のやり取りが殺人にまでつながった。

1月、「国際ロマンス詐欺」で福岡県警などがナイジェリア人の男らを逮捕した。面識のない、主に中年女性たちがSNSなどでやり取りを通じて男らから結婚をほめかされるなどして被害に遭った。

米軍や自衛隊による事故も依然として相次いだ。

6月、沖縄のアメリカ軍嘉手納基地のF15戦闘機が那覇市沖の海上に墜落。事故原因が不明のまま、2日後には飛行を再開した。11月には、アメリカ空軍の空母艦載機FA18戦闘攻撃機が沖縄の北大東島の南西海上で墜落した。

福岡の航空自衛隊築城基地では、所属するF2戦闘機が相次いで事故を起こした。12月に2機が九州の西の空域で訓練中に接触、2月には1機が山口県沖の日本海に墜落した。

九州最大の特定危険指定暴力団・工藤会は、警察による集中的な取締りで資金面、組織面ともに

弱体化している。

7月、工藤会トップで総裁の野村悟被告が脱税の罪に問われた裁判で、懲役3年、罰金8,000万円の実刑判決を受けた。みかじめ料などの上納金は被告個人の所得にあたと認定。今後、一般市民を狙った殺人などの事件でも裁判が進められる。幹部不在の中、税の滞納などから本部事務所は12月に北九州市が差し押さえ、工藤会側は売却費用などを被害者の賠償金に充てることを検討している。

司法の場でも、重要な動きがあった。

7月、長崎県の諫早湾干拓事業を巡り、福岡高裁は、堤防の排水門を開けるよう国に命じた9年前の確定判決を事実上無効とする判決を言い渡した。排水門を開けない国の対応を追認する形となり、有明海再生に向け開門を求める漁業者たちは厳しい立場に置かれた。

3月、34年前の「松橋事件」の再審で熊本地裁が無罪判決を言い渡した。殺人罪で懲役13年の刑に服した85歳の男性について、自白では焼却したとされた布の切れ端が残されていたほか、被害者の傷と刃物の大きさや形が一致しないことが判明。自白と客観的事実が矛盾し、再審の扉が開いた。

いずれの事件・事故・裁判についても、ローカルや全管中ニュースで、詳しく伝え続けた。

(4) スポーツ

プロ野球パ・リーグで、「福岡ソフトバンクホークス」がリーグ2位から勝ち上がり、「広島カープ」との日本シリーズにも勝って2年連続の日本一に輝いた。内川聖一選手がプロ野球51人目の通算2,000本安打を達成した。

サッカー・Jリーグでは「大分トリニータ」が6年ぶりにJ1に復帰し、「鹿児島ユナイテッド」と「FC琉球」がともに初めてのJ2昇格を果たした。

バスケットボール・Bリーグで「ライジングゼファーフ福岡」がB1に初昇格し、九州・沖縄のB1チームは「琉球ゴールデンキングス」と2チームになった。

(5) 地域放送

総合テレビは、平日朝および土日祝日のニュースを原則管中化し、九州・沖縄の情報を広域に発信した。台風や豪雨など災害時には、随時各県域向けの情報を発信した。また、九州・沖縄の域内各局で平日夕方6時台および金曜夜間の地域放送番組の充実を努めた。平日午後6時台の各地のニュース・情報番組では、各県ごとの地域のニュースや話題を掘り下げきめ細かく伝えた。金曜夜間では、九州・沖縄域内の各局が県域放送の充実

努め、各県の視聴者の関心に応える幅広いテーマを身近な目線で伝えた。また、九州・沖縄の共通の課題については、『実感ドドド!』を九州・沖縄に向けブロックで放送した。

特集番組では、長崎・天草の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録、震災から2年を経て復旧作業の進む熊本城、災害の被災地の現状と復興への動きを見つめた番組などを放送したほか、『大河ドラマ』「西郷どん」の終盤に合わせて、西南戦争に敗れ故郷薩摩を目指した西郷隆盛の最後の旅路をたどる特集番組を放送した。このほか、プロ野球「ソフトバンク」の日本シリーズ優勝特番、『NHK福岡ドラマ「福岡美人がゆく!」』、音楽番組『がめにライブ』など、地域に向けた多彩な特集番組を放送した。

ラジオ第1では平日午後5時台の『はっけんラジオ』を継続し、熊本地震や九州北部豪雨など相次ぐ災害を受けて、“地域の安全・安心ラジオ”としての機能強化に努めたほか、インターネットラジオ「らじる★らじる」の普及にも取り組んだ。また、FMでは九州・沖縄の若者に向けた『JO “C&K” Presents がめにラジオ』を年10本放送。地元にごだわったトークと音楽で公開収録を行い、聴取者との結び付き強化にも取り組んだ。

2. 地域放送番組

(1) 定時番組

〔九州・沖縄ブロック〕

『おはよう九州沖縄』 新 G

(除く沖縄) 月～金 7:45～7:55

月～金 7:55～8:00

第1回18.4.2/7:45～各局のネットワークを生かした九州・沖縄地方の最新のトップニュースを伝えたほか、レポート企画で構成。7:55～九州・沖縄地方の詳細な気象情報のほか各地の季節の話題などを伝えた。

『実感ドドド!』 G

金 19:30～19:55

Ⓞ土 7:35～8:00

第1回16.4.22/生放送の報道情報番組。どうなってるの? どうしてなの? どうすればいいの? という3つ“ド”を使って、地域の課題や事件・事故、話題のテーマを取り上げ、より親しみやすく分かりやすいスタイルで伝えた。/各局タイトル:福岡『実感ドドド!@福岡』新、熊本『くまもの風』、長崎『長崎人(じげもん)』、鹿児島『かごスビ!』、宮崎『宮崎熱時間』、大分『フカナビ!オオイタ』、佐賀『佐賀イズム』、沖

縄『きんくる～沖縄金曜クルーズ』

『アサタビ!』 G

(年9本) 土 7:35～8:00

第1回16.5.8/温かい出合いを求めて九州・沖縄8県を巡る旅番組。毎回俳優・タレントが旅人となって魅力あふれる地域の人々、自然・歴史・食べ物などを訪ねた。

『はっけんTV』 G

九州ブロック 月～金 11:30～11:45

福岡県域 月～金 11:45～11:54

第1回13.4.3/九州・沖縄“8県(はっけん)”の今を“発見(はっけん)”する番組。各県の行楽・イベント情報など、九州・沖縄のネットワークを生かして生放送で伝えた。福岡・北九州局は、11時45分から引き続き県域で、暮らしに役立つ身近な情報を伝えた。/各局タイトル:熊本『テレメッセくまもと』、長崎『ながさきナビゲーターヒルミテ』、鹿児島『ひるまえクルーズかごしま』、宮崎『昼前ほっとみやざき』、大分『好きっちゃおおいた』、佐賀『ひるまえ情報便』、沖縄『沖縄ちゅらTV』

『マイあさラジオ九州沖縄』 新 R1

月～土 7:40～7:58

第1回18.4.2/九州・沖縄のニュースや気象・交通情報、地域のホットな話題で構成する生活情報番組。

『はっけんラジオ』 R1

月～金 17:05～17:55

第1回13.4.1/各地の自治体や防災士などとの関係づくりを進め、ふだんからラジオを聴いてもらうことで、“地域の安全・安心ラジオ”の機能強化に努めた。ニュース・気象予報や防災対策情報に加え、身近な地域の情報などを、福岡局のスタジオから生放送で伝えた。九州・沖縄各県の放送局(北九州を除く)から出前放送を行った。

/大分『5時ラジ・おおいた』新

〔県域〕

『ロクいち!福岡』 G

福岡単 月～金 18:10～19:00

第1回15.3.30/福岡のその日の出来事を、いちばん早く、詳しく、分かりやすく伝える「地域いちばん」のニュース番組を目指した。事件・事故などの最新情報、暮らしに直結する重要課題の行方、東京や世界などの動きと福岡との関わり、スポーツ、街角情報などを分かりやすく伝えた。/各局タイトル:北九州『ニュースブリッジ北九州』、熊本『クマロク!』、長崎『イブニング長崎』、鹿児島『情報WAVEかごしま』、宮崎『イブニン

グ宮崎』、大分『いろどりOITA』、佐賀『ニュースただいま佐賀』、沖縄『おきなわHOTeye』

(2) 特集番組

〔九州・沖縄ブロック〕

『熊本地震追悼式』 G

(熊本) 4.14/10:05~10:30

『睦子ばあちゃんと花畑の四季 ~福岡 能古島~』 G

(福岡) 4.27/19:33~20:45

『平成30年沖縄全戦没者追悼式』 G

(沖縄) 6.23/11:45~11:54

※12:15~12:46で全国放送

沖縄は県域で11:54~12:15でマルチ編成

『ニュース「沖縄 慰霊の日」関連』 G

(沖縄) 6.23/17:30~18:00

『世界遺産スペシャル「潜伏キリシタン 250年の祈り」』 G

(福岡) 7.20/19:57~20:42

『歌に込めた被災地へのエール ~阿部真央・イルカ~』 G

(大分) 7.27/19:57~20:42

『まもなく開幕!夏の甲子園100回大会 がんばれ!!九州・沖縄代表校』 G

(九州・沖縄各局参加) 8.4/22:10~22:50

『まるごと体感!奄美・沖縄 奇跡の島々』 G

(鹿児島・沖縄) 8.31/19:57~20:42

『もうひとつのたからのとき~福岡県東峰村 それぞれの1年~』 G

(福岡) 9.21/19:57~20:42

『実感ドドド!』 G

「カンボジアに医療の灯を ~沖縄の医師の挑戦~」

(沖縄) 10.5/19:30~19:55

「メダルに託す夢~ラオスと日本 ともに挑む“TOKYO”~」

(大分) 2.22/19:30~19:55

「中国巨大市場で“知的財産”を守れ」

(福岡) 3.15/19:30~19:55

『密着!熊本城復旧プロジェクト』 G

(熊本) 10.19/19:57~20:42

『祝!日本一“もう1頂!”福岡ソフトバンクホークス!!!』 G

(福岡) 11.3/22:20~22:55ほか

『がめにテレビ「地元×音楽 from 九州」』 G

(福岡) 11.9/23:55~0:25

『前夜祭で楽しもう! ~大相撲九州場所 直前スペシャル~』 G

(福岡) 11.10/22:15~22:58

『アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2018「九州沖縄地区大会」』 G

(福岡) 11.23/10:05~10:59

『西郷どん 最後の旅路をゆく』 G

(福岡) 11.30/19:30~20:42

『実感ドドド!「どうなっているの!?特集」』 G

(福岡) 2.15/19:30~20:15

『食いち!スペシャル「九州沖縄 うまいもの大集合!」』 G

(福岡) 2.15/20:15~20:40

『NHK福岡ドラマ「福岡美人がゆく!」』 G

(福岡) 3.1/19:30~20:42

『がめにライブ』 G

(福岡) 3.9/22:10~22:53

『大河ドラマ「いだてん」特集 金栗万博 in熊本』 G

(福岡・熊本) 3.17/13:05~13:50

『あなたとつながる!おはよう九州沖縄』 G

(福岡) 3.23/7:35~8:00

『ふるさとのたから』 G

19:55~19:57ほか

『維新の傑物たち』 G

(福岡) 20:43~20:45ほか

『九州沖縄オリンピック伝』 G

(福岡) 20:43~20:45ほか

『行こうよ 夏!九州』 G

(福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島)

12:43~12:44ほか

『JO“C&K”Presents がめにラジオ』 FM

(年10本) 23:00~23:50ほか

〔県域〕

〔福岡局〕

『ふく!なび』 G

(月2回) 水 20:43~20:45ほか

『【きょうから開催!】NHK福岡スポーツフェスタ2018』 G

10.13/9:55~10:00ほか

『博多祇園山笠2018』 G

7.15/4:30~6:15

『生中継!大濠花火2018』 G

8.1/19:30~21:33

『ミニドラマ 六本松愛し方改革』 G

「第1話」 8.4/12:40~12:45

「第2話」 8.12/22:55~23:00

「第3話」 8.18/12:40~12:45

「第4話」 8.25/12:40~12:45

「第5話」 9.1/12:40~12:45

『ライフ・サポーター あなたを守る防災ラジオ
「減災 私たちにできること」』 R1

3.16/12:15~12:55

[北九州局]

『特集番組 百貨店撤退~地域経済への波紋は~』
G

3.16/18:05~18:30

『ハレピョンカフェ』 G

(月1回) 土 12:42~12:45ほか

[熊本局]

『マッスル天気』 新 G

月~金 17:57~18:00

『くまもとの風スペシャル』 G

「わが不知火は ひかり風 石牟礼道子の遺
言」

6.23/10:05~11:20

「プロローグ “いだてん”」

12.27/19:30~20:15

『大河ドラマ「いだてん」特集 金栗万博 in熊
本』 G

3.15/19:57~20:42

『2018 防災・命のラジオ』 R1

9. 1/12:15~13:00

[長崎局]

『生中継 長崎くんち2018』 E

10. 7/ 7:00~11:00

『被爆体験記 朗読シリーズ「ナガサキ 被爆の
記憶」』 R1・FM

7.23~25, 27, 30, 8. 2~ 3,

6~10, 13~14/11:55~12:00

[鹿児島局]

『南の島の西郷どん 七転八起からつかんだ “生
きる道”』 G

5.18/19:30~20:42

『明治維新150年 薩摩焼 最高傑作に挑む』 G

6.29/19:57~20:42

『鹿児島防災シンポジウム』 G

11. 2/19:30~20:42

『西郷どんの生きた道~今からでも遅くない! 最
終回直前スペシャル~』 G

12.14/19:30~20:42

『辛島美登里で3時間!! ~フリク&ミニミニの
ど自慢』 R1

4.29/13:05~16:00

『今年もやります!「夏休み 子ども “西郷どん”
電話相談」』 R1

8.25/13:05~15:00

『原口泉・東川隆太郎のプレイバック「西郷ど
ん」!』 FM

12.24/14:00~16:00

『朗読&歴史トークライブ vol.4「文学の中の
『西郷どん』』』 FM

3.17/14:00~16:00

[宮崎局]

『宮崎熱時間 宮崎のイチバンを探せ!【宮崎県
ナンバーワン徹底調査スペシャル】』 G

5.18/19:30~19:55

『宮崎熱時間 “三十一文字”の青春 ~高校生
たちの「短歌甲子園」~』 G

9.14/19:30~19:55

『みやざきスペシャル「西郷どんの“素顔”~徹
底トーク!宮崎×西郷隆盛』』 G

11.16/19:57~20:42

[大分局]

『フカナビ!オオイタ 番外編「よるブラ ティ
ープなBEPPUにイエー」』 G

5.21/ 0:40~ 1:10

『第33回 国民文化祭・おおいた2018』 G

10. 6/17:00~19:30

『フカナビ!オオイタ J1昇格おめでとう!大
分トリニータ』 G

11.24/ 7:35~ 8:00

[佐賀局]

『さがスペシャル 玄海原発避難マニュアル ~
その時 あなたはどう動く~』 G

4.22/15:05~15:55

『スーパーハイビジョン体験in佐賀さいこうフェ
ス』 G

10.20/10:05~10:30

[沖縄局]

『きんくる~沖縄金曜クルーズ~』 G

「甲子園 100回大会!うちな~高校野球物
語」

7.13/19:33~20:45

「引退直前企画! 沖縄からありがとう!!安
室奈美恵さん」

9.14/19:30~19:55

「辺野古に住んで見えたこと」

12.14/19:30~19:55

『沖縄の歌と踊り』 G

(月1回) 金 19:30~19:55

『大自然を未来へつなぐ HYのメッセージ』

G

8.31/19:30~19:55

『まるごと体感!奄美・沖縄 奇跡の島々』 G 8.31/19:57~20:42	長崎大会 鹿児島大会	R1/10.7~8 R1/10.7.9
『沖縄ミュージックジャーニー ライブスペシャル「かりゆし58×きいやま商店」』 G 2.22/19:30~20:17	宮崎大会 大分大会 佐賀大会	R1/10.7.9 FM/10.2 R1/10.1 FM/10.2

〔各局共通〕

『第85回NHK全国学校音楽コンクール』

〔九州・沖縄ブロック〕

九州・沖縄ブロックコンクール

小学校・中学校・高等学校の部

E 9.22/14:00~17:00

〔各県域〕

福岡県コンクール E

小学校 9.1/12:30~13:55

中学校・高等学校 9.1/14:00~16:55

熊本県コンクール FM 8.20~24/18:00~18:50

長崎県コンクール FM 8.27/14:00~15:50

鹿児島県コンクール FM 8.26/14:00~15:50

宮崎県コンクール FM 8.20~24/18:00~18:50

大分県コンクール FM 8.19/9:00~11:00

佐賀県コンクール FM 8.20/14:00~15:35

沖縄県コンクール E

小学校 9.1/10:00~11:35

中学校 9.1/12:30~14:00

3. スポーツ中継

〔高校野球〕

第100回全国高校野球選手権大会・地区大会

福岡大会 準決勝 G・E・R1・FM/7.21~22

決勝 G・R1/7.23

熊本大会 準決勝 G・E・R1/7.21

決勝 G・E・R1・FM/7.22

長崎大会 準決勝 G・E・R1/7.21

決勝 G・R1/7.22

鹿児島大会 準決勝 G・E・R1/7.24

決勝 G・R1/7.25

宮崎大会 準決勝 G・E・R1/7.21

決勝 G・R1/7.23

大分大会 準決勝 G・E・R1/7.23

決勝 G・E・R1・FM/7.25

佐賀大会 準決勝 G・E・R1・FM/7.24

決勝 G・R1/7.25

沖縄大会 準決勝 G・E・R1/7.22

決勝 G・R1/7.23

第143回九州地区高校野球大会 (熊本)

準決勝, 決勝 R1/10.24~25

熊本大会 R1/10.7~8

FM/10.8

(県域)

第66回NHK杯高校野球 長崎県大会

決勝 R1/6.10

第60回NHK旗争奪鹿児島県選抜高校野球大会

準決勝 R1/6.3

決勝 R1/6.4

第66回NHK旗高校野球熊本大会

決勝 R1/6.3

〔プロ野球〕(九州・沖縄ブロック)

「ソフトバンク」対「日本ハム」 G/4.12

「ソフトバンク」対「楽天」 G/5.25

「ソフトバンク」対「広島」 G/6.17

「ソフトバンク」対「西武」 G/8.24

「ソフトバンク」対「オリックス」 G/9.7

パ・リーグCSファーストステージ第1~3戦

「ソフトバンク」対「日本ハム」 R1/10.13~15

パ・リーグCSファイナルステージ第3戦

「西武」対「ソフトバンク」 R1/10.19

〔サッカー Jリーグ (J1/J2/J3)〕(各県域)

「長崎」対「大阪」 G/4.14

「福岡」対「千葉」 G/4.22

「大分」対「金沢」 G/11.10

「福岡」対「熊本」 G/11.11

「熊本」対「愛媛」 G/11.17

「鳥栖」対「横浜」 G/11.24

「鹿児島」対「沼津」 G/11.25

「鹿島」対「大分」 G/2.23

「鳥栖」対「名古屋」 G/2.23

「福岡」対「長崎」 G/3.2

〔各県サッカー選手権大会決勝〕(各県域)

福岡大会 G/5.13

熊本大会 G/5.13

長崎大会 G/5.13

鹿児島大会 G/5.13

宮崎大会 G/5.13

大分大会 G/5.13

佐賀大会 G/5.13

〔Bリーグ (B1)〕

「琉球」対「名古屋」 G/5.13

B1・B2入替戦「富山」対「熊本」 G/5.28

「琉球」対「名古屋」 G/10.12

「熊本」対「香川」	G / 1.14
「福岡」対「東京」	G / 2.2
〔全国高校駅伝各県予選〕(各県域)	
福岡県	R1・FM / 11.4
長崎県	FM / 11.2
鹿児島県	FM / 11.2

II. 技 術

1. 緊急・災害報道、選挙関連

18年度は、大分耶馬溪土砂崩れ（4月）、西日本豪雨（7月）、口永良部火山活動などの自然災害や、沖縄普天間基地移設に伴う辺野古沿岸の埋め立て作業など、さまざまな緊急報道に対応した。

大分耶馬溪の土砂崩れは、まとまった雨も降っていない中で予期しない早朝の災害であった。初動は崩落現場を南北からはさむように3台の衛星中継車を派遣し、現場北側からの取材となっても5日間にわたって災害報道が続いた。継続する報道対応のため、大分市の石油会社から車両への給油協力を得て長期化への対応を行った。

8月には口永良部島新岳の火山活動が再び活発化した。19年1月には火砕流を伴う爆発的噴火が発生し噴火速報が発表された。インフラ整備が進んでいない口永良部島に3月に太陽光カメラを設置し、火口から3キロメートルの位置で火山活動を監視する体制を整えた。

注目を集めた、前知事逝去に伴う9月の沖縄県知事選では中継を行い、玉城氏の当選を伝えた。2月には辺野古埋め立ての賛否を問う県民投票が実施され、反対が7割を超える結果となった。沖縄局では全中・管中・ローカル放送で開票状況を伝えた。一方で、国が進める辺野古埋め立て作業が始まり、土砂投入の瞬間は、ヘリ・海上取材を含め4か所から生スルー伝送を行い、映像を送り続けた。

2. 番組制作

地域を舞台としたドラマ制作、地元アスリートの活躍やスポーツの感動を届ける中継、視聴者参加の公開番組、歴史・伝統・文化を伝える特番など、地元で暮らす人々の元気と情熱を発信する質の高い番組の制作と送出に取り組んだ。

福岡の最先端エリア・六本松を舞台に、5分×5話の地域発ミニドラマ『六本松愛し方改革』の4K制作を行い、8月毎週土曜に放送した。通算16作目となる『NHK福岡ドラマ「福岡美人がゆ

く!』を4K制作し、3月1日に九州・沖縄ブロックで放送した。長崎局では地域発ドラマ『かんざらしに恋して～長崎発地域ドラマ～』を制作し、2月6日にBSPで放送した。3作品とも地元に着した内容で、地域の魅力を発信した。

6月23日『沖縄全戦没者追悼式』、8月9日『長崎平和祈念式典』の中継は国際放送でも伝え、平和への願いを世界に向けて伝えた。

プロ野球では、「ソフトバンク」のクライマックスシリーズ優勝と日本シリーズの優勝特番を、祝勝会のもようを交えて放送した。

今シーズンからBリーグに昇格した「ライジングゼファー福岡」の試合を中継し12月12日にBS1、2月2日に福岡県域で放送。沖縄でも「琉球ゴールデンキングス」の試合を中継し、地元チームの盛り上がりも伝えた。

九州・沖縄にゆかりのある7組のアーティストが集結し、ふるさとから旅立つ若者たちに向けた音楽特番『がめにライブ』を収録。クレーンカメラや最新の照明機器を駆使して、迫力ある映像・音声で番組を盛り上げた。

3. 地域放送サービスの充実

17年度に引き続き、「大濠花火大会」の中継に合わせて、360度カメラで撮影した画像をインターネットで見られるサービスを実施した。撮影からホームページにアップロードするまでの作業工程を自動化するアプリケーションを独自に開発し、より多くの画像を短時間で公開することができた。

プロ野球中継では、選手への「応援メッセージ」をツイッターやメールで募集し紹介するなど、視聴者参加型サービスの実施に加え、スタメン、控え24人の選手へ独自に取材した「意気込み」や「ふるさと自慢」についてデータ放送で紹介した。

4. 放送設備の整備と機能強化

福岡局では、17年度から運行装置更新に伴う建築工事や無停電電源設備の強化整備などを行い、18年11月から本格的に運行装置の更新工事に着手した。鹿児島・沖縄・長崎局における運行装置更新に伴う整備についても計画的に進めた。なお、北九州局の運行装置更新については、広域圏内局と同じく装置本体は福岡局に設置する。また、大分局では仮設位置でのNC卓更新整備を完了させ、19年5月に本運用を開始する。

放送設備の信頼性向上を図るため、福岡タワー

のテレビ予備空中線整備、域内の老朽化したテレビ・ラジオ・FM中継放送所の送信機、空中線更新、NHK共聴施設（最大規模の鹿児島屋久共聴含む）の光化工事を行い、設備の基盤強化に努めた。

また、非常時に備え、放送会館等に非常用TV（4局）、R（8局）送信設備の整備や、福岡局の近くを流れる樋井川氾濫による放送会館への浸水を想定し、放送を継続するため基幹局へのプログラム回線をバックアップするルートを構築し機能強化を実施した。

5. 電波確保と良質な受信環境整備

18年度は複数の台風災害で、中継局の自家発電装置や共聴の障害、長時間の停電など多くの被害を受けたが、早期の復旧対策により速やかな電波確保に取り組んだ。

外国波混信によるテレビ受信環境改善を図るため、送信対策として、チャンネルリバック（宗像・平戸・松浦局で送信チャンネル変更）、増力対策（太宰府・須恵・松浦南局で送信出力を増力）を完了した。

Ⅲ. 視聴者

1. 広報

18年度、九州・沖縄の各県には、視聴者から電話などで13万5,654件の意見・問い合わせが寄せられた。

（1）番組広報

福岡局では、朝の管中ニュース『おはよう九州沖縄』の開始、夕方のニュース『ロクいち！福岡』のキャスター変更を受け、九州各県の主要JR駅でのポスター掲示や西鉄福岡駅の大型ビジョンなどで広報活動を行った。3月放送の『NHK福岡ドラマ「福岡美人がゆく！」』は平成生まれの30歳間近の男女が主人公だったため、主に20～30代に向けてFacebook、Instagram、Twitterなどで広報活動を展開した。

北九州局では、関門海峡を舞台にした7月の『プラタモリ』、8月の『ドキュメント72時間』で独自のポスターを作成し、山口局とも連携して放送をPRした。

熊本局では、1月に『大河ドラマ』「いだてん」のパブリックビューイングを熊本局および「くまもんスクエア」で開催した。

長崎局では、『かんざらしに恋して～長崎発地域ドラマ～』の放送に向けて、県内の公共施設な

ど200か所以上にチラシ・ポスターを送付したほか、長崎新聞への広告掲載、番宣用の年賀はがきの印刷などを行った。加えて、大型ショッピングモールなどで30秒スポットの上映を実施した。

鹿児島局では、『大河ドラマ』「西郷どん」のパブリックビューイングを5月の奄美編の放送に合わせて奄美大島で、12月の最終回を鹿児島市内で実施した。このうち奄美大島会場は約1,200人が来場したほか、地元CATVの協力を得て、トークショーの模様などをCATVの自主チャンネルで放送した。

（2）地域サービス

福岡局では、5月に恒例の会館公開「NHKどんたく広場2018」を“夢見るチカラ～世界は進化する～”をテーマに実施。2日間で1万人以上の来館者を迎えた。また、梅雨の時期を前に「防災ステーション2018」を開催。避難所生活を快適にするアイデアを伝えるワークショップなどを行った。

宮崎局では『大河ドラマ』「西郷どん」巡回展を西郷ゆかりの地である延岡、宮崎、都城で開催し、1万人を超える入場者があった。

大分局では4月、九州北部豪雨の被災地・日田市で松岡修造さんによるテニスクリニックを開催。約900人が参加した。同じく日田市では5月、「NHK子ども音楽クラブ」を実施した。

佐賀局では県と共催で、明治維新150年とラジオ体操90周年を記念し『みんなでラジオ体操～佐賀弁de～』の公開収録を行った。当日は通常のラジオ体操に加えて、佐賀市制作の「佐賀弁ラジオ体操第一」に合わせて体操を行った。

（3）理解促進活動

九州・沖縄の各局は、12月に開局したBS4K・BS8Kについて、さまざまな周知広報活動を展開した。

福岡局では、放送開始記念イベントを実施。300インチの大画面による8Kのパブリックビューイングなどを行った。

熊本局では、10月の『大河ドラマ』「西郷どん」巡回展に合わせて、4K・8KをPRするイベントを実施。熊本局制作の8K番組『熊本地震“痕跡”を未来へ』を利用した8Kワークショップなどを行った。

北九州局では、10月の「こくらハロウィン」、11月に開催された漫画・アニメをテーマにした九州最大規模の「北九州ポップカルチャーフェスティバル」の会場で4K合成撮影会などを実施した。

沖縄局では、12月に那覇市内の大型ショッピングモールで8Kのパブリックビューイングを実施した。放送展示や受信相談を実施するとともに、沖縄局のマスコットキャラクターの着ぐるみによるPRを行い、2日間で約2,000人が集まった。

2. イベント事業

18年度、九州・沖縄地方では、全国放送公開番組をはじめ、教育・福祉・スポーツイベント、食料・環境などのキャンペーン、展覧会、地域企画イベントなど、さまざまなジャンルのイベントを計203本実施し、43万8,767人の来場者があった。

(1) 全国・地域放送番組の公開放送

『NHKのど自慢』『新・BS日本のうた』などの全国放送公開番組や、「大相撲前夜祭』『がめにライブ』などの地域放送公開番組を九州・沖縄で42本実施し、約3万4,000人の来場者に向けて公開放送した。

(2) 地域企画イベント

熊本局では、地元ゆかりの18年『大河ドラマ』『いだてん』のPRイベントとして「金栗万博～世界“最遅”ランナー金栗四三の軌跡～」「金栗万博～金栗イズム体験コーナー～」を実施し、2日間で2,213人の来場があった。また、大分局では、国民文化祭の応援事業として「おおいた花鳥風月コンサート～日本舞踊と和楽器にのせて～」を実施し648人の来場があった。長崎局では、Eテレ『Why!?プログラミング』と連動したワークショップイベント「プログラミングが大好きになる！ワークショップ」を小学生と教職員向けに実施し、166人の参加があった。

(3) 教育・こどもイベント

北九州局では「おかささんといっしょファミリーコンサート」を北九州市で、沖縄局では「いないいないばあ！ワンワンわんだーらんど」を宜野湾市で開催し、それぞれ3,000人を超える家族連れでにぎわった。また、九州・沖縄各県で毎年行っている「NHK全国学校音楽コンクール」に246校1万8,014人、「NHK杯中学校・高校放送コンテスト」に475校3,089人の児童・生徒が参加した。放送番組の学校教育への活用を考える「第67回九州地方放送教育研究大会」を鹿児島市で開催し、九州・沖縄各県の幼稚園・保育園、小・中・高等学校の教育関係者400人が参加した。

(4) スポーツ・福祉・キャンペーン

福岡局と大分局では、東京オリンピック・パラリンピックへの期待感を高める参加体験型のスポーツイベントを行い、それぞれ6,707人、1,262人

の来場があった。宮崎局では、障害のある人が書いた詩を著名人がアートで表現する福祉イベント「NHKハート展」を宮崎市で開催し、1,518人の来場があった。そのほか各放送局では、食料、環境、防災など放送局独自の視点で地域の課題を取り上げたキャンペーンイベントを実施した。

(5) その他(展覧会)

「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」
(18.5.19～7.16) 19万8,489人
「第65回日本伝統工芸展」
(19.2.6～11) 1万1,776人

3. 営業

18年度においては、年間を通じて拠点局・各局が連携し、法人委託の開発に取り組んだ。九州・沖縄ブロックでは、18年度末で、エリア型法人53社、公募型・公開競争入札法人16社となった。宮崎・佐賀局でも公募型法人委託と契約したことにより、ブロック全局で公募型・公開競争入札法人を導入できた。また、訪問要員の活動品質を高めるため、クレーム発生の抑止に通年で取り組み、18年11月以降3月まで、連続して抑止指標を達成した。これらの取り組みに加え、訪問によらない営業活動の推進、職員による事業所キャラバン、契約自主申し出の増加等の追い風もあり、ブロック全局で全営業目標を達成することができた。

未契約世帯に対する民事訴訟の提訴を長崎・北九州局において初めて実施した。未契約の困難事業所に対しては、民事調停とリンクした民事訴訟の提訴によって契約適正化につなげた。

「チャレンジ80+」活動として、域内各局でBS番組と連動し、全局体制で取り組んだ。また、『NHK福岡ドラマ「福岡美人がゆく！」(福岡)、『かんざらしに恋して～長崎発地域ドラマ～』(長崎)などの地域発ドラマと連携して、訪問要員の番組知識向上やケーブルテレビ事業者と連携を強化し、衛星放送普及と取り次ぎ拡大につながった。